

令和元年度 千葉県総合教育センター主要事業 内部評価

目 次

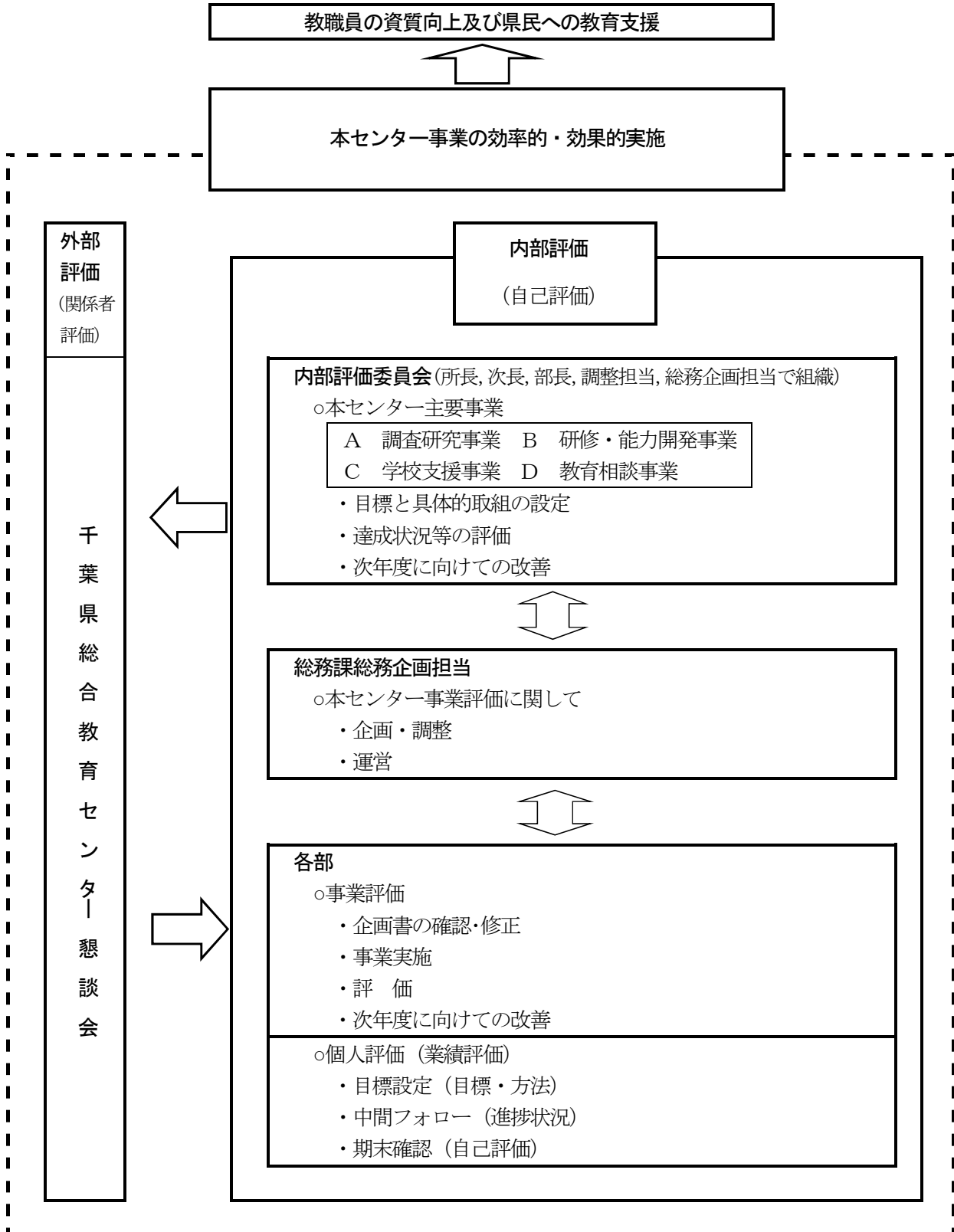
| | 頁 |
|---|----|
| 1 令和元年度総合教育センター事業評価全体構想 | 1 |
| 2 主要事業全体評価計画 | 2 |
| 3 令和元年度内部評価一覧 | 3 |
| 4 評価票 1 | |
| (1) 全体目標及び主要事業 | 6 |
| (2) 主要事業ごとの評価 | |
| A 調査研究事業 | 7 |
| B 研修・能力開発事業 | 9 |
| C 学校支援事業 | 11 |
| D 教育相談事業 | 13 |
| 5 評価票 2 | |
| A 調査研究事業 | 15 |
| (1) 各教科・領域・学校経営等に関する基礎的・実践的な調査研究と現場への還元 | |
| (2) 社会の変化に伴う今日的教育課題や本県の教育課題に即した調査研究 | |
| B 研修・能力開発事業 | 21 |
| (1) 次世代を担う成長期教員の育成を支援する研修の充実 | |
| (2) 地域の核となる発展期教員の資質能力向上を支援する研修の充実 | |
| (3) 学校教育活動をリードする管理職及び充実期教員の資質能力向上を支援する研修の充実 | |
| (4) 社会の変化に伴う今日的教育課題や本県の教育課題に対応した教職員研修の充実 | |
| C 学校支援事業 | 43 |
| (1) 地域、学校等からの要請に応える講師派遣 | |
| (2) カリキュラムサポート室の充実及び情報提供 | |
| (3) 調査研究成果の普及・活用促進 | |
| D 教育相談事業 | 46 |
| (1) 特別支援教育相談体制の充実 | |

1 令和元年度総合教育センター事業評価全体構想

(1) 目標

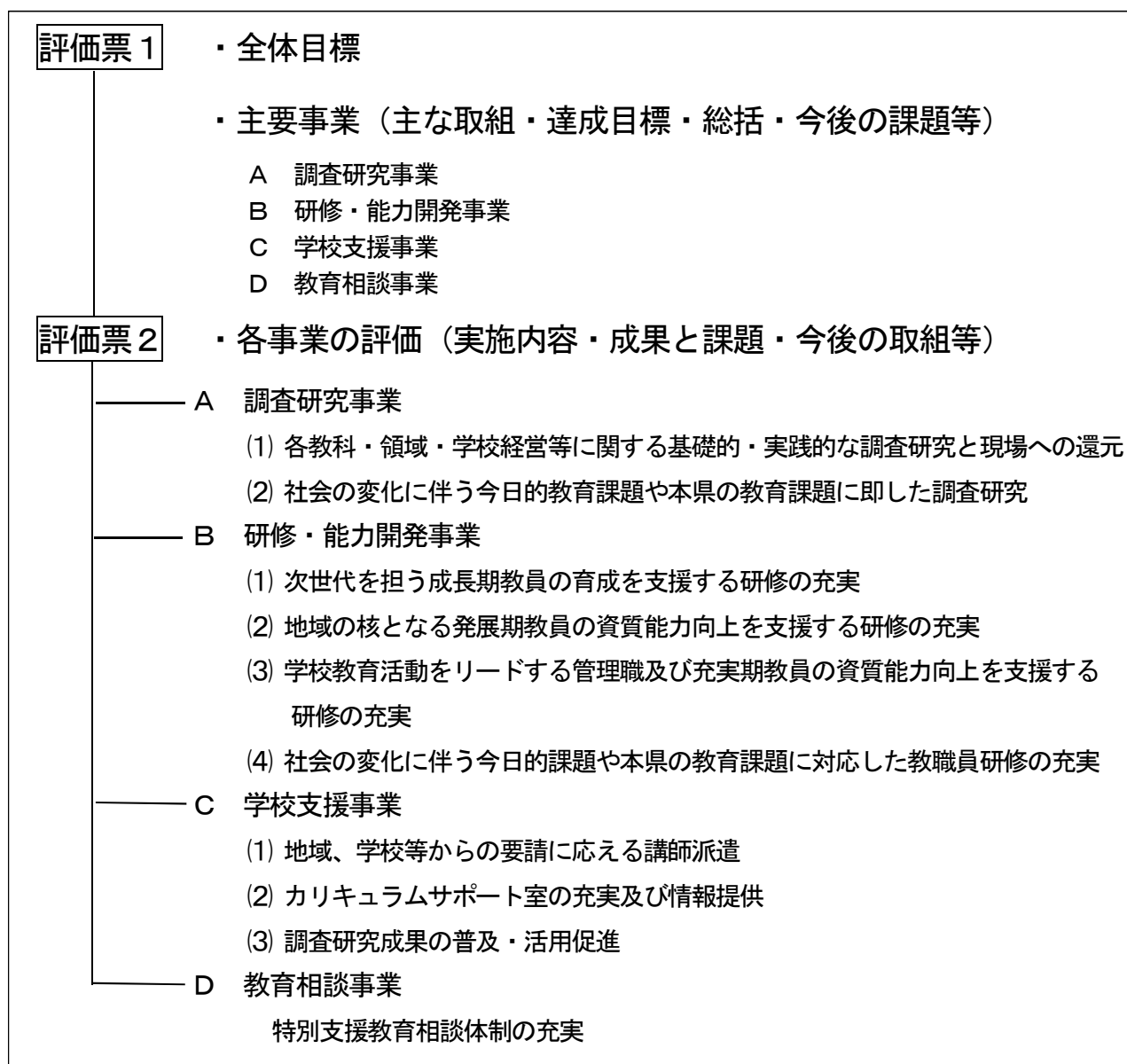
- ①総合教育センターが、教育に関する調査研究及び教育関係職員の研修等の運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、総合教育センターとして組織的、継続的な改善を図る。
- ②総合教育センターが内部評価（自己評価）の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、本センター懇談会委員の理解と助言を得て、効率的・効果的な行政運営の実現を目指す。

(2) 評価関連図



2 主要事業全体評価計画

(1) 全体計画



(2) 内部評価票のまとめ方について

- ① 評価票 1 は当センター主要 4 事業（A 調査研究事業、B 研修・能力開発事業、C 学校支援事業、D 教育相談事業）について総合考察評価するものである。
- ② 評価票 2 は個々の事業に関して考察評価するものである。

(3) 評価基準

受講者の満足度・目標に対する達成度等が

A : 90%以上

B : 70%以上 90%未満

C : 50%以上 70%未満

D : 50%未満

3 令和元年度内部評価一覧

<評価票1>

| | 主要事業一覧 における項目 | No. | 区分 | 調査研究名・研修事業名 | 評価 |
|---------------|------------------|-----|----|-------------|----|
| 主要 4 事業 | / | 1 | / | A 調査研究事業 | A |
| | | 2 | / | B 研修・能力開発事業 | A |
| | | 3 | / | C 学校支援事業 | A |
| | | 4 | / | D 教育相談事業 | A |

<評価票2>

| | | | | | | |
|---------------------|--|-------------------------------------|----|---|-----------|---|
| A 調査 研究 事業 | (1) 各教科・領域・学校経営等に関する基礎的・実践的な調査研究と現場への還元 | | | | | |
| | A-(1)-① | 5 | / | 高等学校における探究活動に関する研究～「総合的な探究の時間を通して」～【新規】 | A | |
| | A-(1)-② | 6 | / | 高等学校の新教科「理数科」に関する研究【新規】 | B | |
| | A-(1)-③ | 7 | / | 児童生徒が自己の変容に気づき、資質・能力を伸ばすための指導方法と評価方法の在り方 | A | |
| | A-(1)-④ | 8 | / | 全国学力・学習状況調査の実施及び結果分析 | A | |
| | A-(1)-⑤ | 9 | / | 県立中学校入学者決定及び公立高等学校入学者選抜に関する調査研究 | A | |
| | A-(1)-⑥ | 10 | / | 障害のある児童生徒が自立と社会参加するために必要な資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントに関する研究～障害種の異なる特別支援学校の実態から～ | A | |
| | (2) 社会の変化に伴う今日的教育課題や本県の教育課題に即した調査研究 | | | | | |
| | A-(2)-① | 11 | / | これからの時代に生きる教員を育てる教員研修の在り方に関する研究【新規】 | B | |
| | A-(2)-② | 12 | / | 教員の資質・能力の向上を図る能動的自立研修の活性化に関する研究 ～能動的自立研修ツールの改訂を通して～【新規】 | B | |
| | A-(2)-③ | 13 | / | 各教科等の特性に応じたプログラミング教育の指導法に関する研究 | A | |
| | A-(2)-④ | 14 | / | 高等学校授業ライブラリの在り方と活用に関する研究【新規】 | B | |
| | B 研修 ・ 能力 開発 事業 | (1) 次世代を担う成長期教員の育成を支援する研修の充実 | | | | |
| | | B-(1)-① | 15 | 悉皆 | 幼稚園等初任者研修 | A |
| 16 | | | 悉皆 | 小学校初任者研修【内容変更】 | A | |
| 17 | | | 悉皆 | 中学校初任者研修【内容変更】 | A | |
| 18 | | | 悉皆 | 高等学校初任者研修【内容変更】 | A | |
| 19 | | | 悉皆 | 特別支援学校初任者研修【内容変更】 | A | |
| B-(1)-② | | 20 | 悉皆 | 小学校フォローアップ研修 I | A | |
| | | | 悉皆 | 中学校フォローアップ研修 I | | |
| | | | 悉皆 | 高等学校フォローアップ研修 I | | |
| | | | 悉皆 | 特別支援学校フォローアップ研修 I | | |
| B-(1)-④ | | 21 | 悉皆 | 小学校5年経験者研修 | A | |
| | | | 悉皆 | 中学校5年経験者研修 | | |
| | | | 悉皆 | 高等学校5年経験者研修 | | |
| | | | 悉皆 | 特別支援学校5年経験者研修 | | |

| (2)地域の核となる発展期教員の資質能力向上を支援する研修の充実 | | | | | |
|--|-----------|----|----------------------------|---------------------------------|---|
| B-(2)-① | 22 | 悉皆 | 中堅教諭等資質向上研修(幼稚園教諭等)【内容変更】 | A | |
| | | 悉皆 | 中堅教諭等資質向上研修(小学校教諭)【内容変更】 | | |
| | | 悉皆 | 中堅教諭等資質向上研修(中学校教諭)【内容変更】 | | |
| | | 悉皆 | 中堅教諭等資質向上研修(県立学校等教諭)【内容変更】 | | |
| B-(2)-② | 23 | 推薦 | 新任研究主任研修 | A | |
| B-(2)-④ | 24 | 推薦 | 長期研修 | A | |
| (3)学校教育活動をリードする管理職及び充実期教員の資質能力向上を支援する研修の充実 | | | | | |
| B-(3)-① | 25 | 悉皆 | 新任校長研修 | A | |
| B-(3)-② | 26 | 推薦 | 「チーム学校」リーダー研修 | A | |
| B-(3)-③ | 27 | 悉皆 | 主幹教諭研修【新規】 | B | |
| B-(3)-⑤ | 28 | 推薦 | 幼児教育アドバイザー育成研修 | A | |
| B-(3)-⑦ | 29 | 希望 | 出前リーダーサポート塾 | A | |
| (4)社会の変化に伴う今日的教育課題や本県の教育課題に対応した教職員研修の充実 | | | | | |
| B | B-(4)-①-イ | 30 | 推薦 | 中・高等学校英語科教員英語力強化研修【新規】 | A |
| 研修・能力開発事業 | B-(4)-②-ア | 31 | 希望 | 学ぶ意欲を引き出す授業づくり研(東葛) | A |
| | | | 希望 | 一歩進んだ指導技術研-「ほめる」と「ホンネ」-(東上総) | |
| 希望 | | | 学びに向かう力を高める授業づくり研(南総) | | |
| | B-(4)-②-ア | 32 | 希望 | 活動と学びのわくわく！生活科実技研修 | A |
| | B-(4)-②-ア | 33 | 希望 | 総合的な学習の時間「思考ツールによるしかけ方」研修 | A |
| | B-(4)-②-ア | 34 | 希望 | スマイル先生！幼児教育若手指導力アップ研修 | A |
| | B-(4)-⑤ | 35 | 推薦 | 「政治的教養を育む教育」基礎研修 | B |
| | B-(4)-⑥-ア | 36 | 推薦 | 教育情報化推進リーダー養成研修 | A |
| | B-(4)-⑥-ウ | 37 | 希望 | 児童生徒の情報活用能力の育成研修 | A |
| | B-(4)-⑥-エ | 38 | 希望 | 校務におけるICT活用能力向上研修 | A |
| | B-(4)-⑦ | 39 | 希望 | 初等理科 | A |
| | B-(4)-⑦ | 40 | 希望 | 物理 | A |
| | B-(4)-⑦ | 41 | 希望 | 化学 | A |
| | B-(4)-⑦ | 42 | 希望 | 理科実験土曜塾 | A |
| | B-(4)-⑦ | 43 | 希望 | 産業教育 技術・家庭科(高等学校実技研修【a家庭科・工業科】) | A |
| | B-(4)-⑦ | 44 | 推薦 | 産業教育 技術・家庭科 | A |
| | B-(4)-⑧-ア | 45 | 希望 | 障害の理解と指導 | A |
| | B-(4)-⑧-ウ | 46 | 推薦・希望 | 自立活動研修 | A |
| | B-(4)-⑧-カ | 47 | 推薦・希望 | 施策・課題への対応 | A |

| | | | | | |
|------------------------|---------------------------------|----|------------|---|---|
| B 研修・ 能力開 発事業 | B-(4)-⑨-イ | 48 | 希望 | 若い教師のためのあすなる塾 | A |
| | B-(4)-⑨-エ | 49 | 希望 | 「知りたい・学びたい発達障害」土曜塾 | A |
| | B-(4)-⑩-イ | 50 | 希望 | ちば！教職たまごプロジェクト | A |
| | B-(4)-⑪ | 51 | 推薦 | 高等学校におけるALの視点にたった授業づくり研修【新規】 | B |
| | B-(4)-⑫ | 52 | 希望 | グッと！オリパラ①～フェンシング・ゴールボール体験研修～ グッと！オリパラ②～テコンドー・シッティングバレーボール体験研修～ | A |
| | B-(4)-⑬ | 53 | 希望 | 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業デザイン研修【新規】 | A |
| | B-(4)-⑭ | 54 | 希望 | 創造力を育む「課題研究」の進め方研修【新規】 | A |
| | B-(4)-⑯ | 55 | 推薦 | プログラミングデーinちば2019【新規】 | B |
| C 学校支 援事業 | (1) 地域、学校等からの要請に応える講師派遣 | | | | |
| | C-(1)-① | 56 | | 講師派遣(出前講師)等 | A |
| | (2) カリキュラムサポート室の充実及び情報提供 | | | | |
| | C-(2)-① | 57 | | 教育活動相談業務等カリキュラムサポート室の運営 | B |
| | (3) 調査研究成果の普及・活用促進 | | | | |
| | C-(3)-① | 58 | | 総合教育センター・子どもと親のサポートセンター研究発表会 | |
| | C-(3)-③ | 59 | | 『千葉教育』の発行 | |
| C-(3)-④ | 60 | | ガイドブック等の普及 | A | |
| D 教育相 談事業 | (1) 特別支援教育相談体制の充実 | | | | |
| | D-(1)-① | 61 | | 日常の教育相談の充実 | A |
| | D-(1)-② | 62 | | 子どもと親のサポートセンターとの協働的な相談の実施 | A |
| | D-(1)-③ | 63 | | 関係機関との相談連携の推進 | A |

4 評価票 1

(1) 全体目標及び主要事業

総合教育センターは、教育機関設置条例第8条に基づき、「A 調査研究」、「B 研修・能力開発」、「C 学校支援」及び「D 教育相談」の4つの柱で事業を展開している。

令和元年度は、昨年度のセンター懇談会における提言や第2期千葉県教育振興基本計画「新みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」及び新しい学習指導要領の告示等を踏まえ、以下の全体目標を設定し、これに基づき4事業を実施する。

【総合教育センター全体目標】

1 新しい学習指導要領の趣旨を生かし、教員の資質能力向上に結びつく研究・研修を推進する。

- A 調査研究事業（◎カリキュラム開発部、学力調査部、特別支援教育部）
- B 研修・能力開発事業（◎研修企画部、カリキュラム開発部、特別支援教育部）

2 子供たちの資質・能力を育む効果的な指導方法を探り、教職員の指導力を具体的に支援する。

- C 学校支援事業（◎カリキュラム開発部、特別支援教育部）
- D 教育相談事業（特別支援教育部）

【主要事業】

A 調査研究

各教科・領域・学校経営等に関する基礎的・実践的な調査研究及び社会の変化に伴う今日的教育課題や本県の教育課題に即応した調査研究を行うことにより、本県の教育課題や学校が抱える課題の解決・改善に資する。

B 研修・能力開発

教育関係者の資質向上・能力開発を図るための専門的で実践的な研修を行うとともに、広く県民への教育に関する奉仕を行う。

C 学校支援

センター所員の専門性を生かし、学校や教職員への支援及び助言を行うとともに、調査研究の成果等を周知し、各地域・学校の教育活動充実に資する。

D 教育相談

就学前幼児や児童生徒を中心に、特別な教育的支援の必要な子どもについて、保護者や本人、教職員の申し込みにより、教育・養育上のニーズに応じて相談を行う。

相談内容によっては、医師による相談や「子どもと親のサポートセンター」と連携した相談を行ったり、学校現場との連携を図ったりすることで、学习上・生活上の困難の克服・改善に資する。

(2) 主要事業ごとの評価

A 調査研究事業

【評価 A】

【今年度の主な取組】

- (1) 各教科・領域、学校経営等に関する基礎的・実践的な調査研究と現場への還元
 - ① 高等学校における探究活動に関する研究（新規）
 - ② 高等学校の新教科「理数科」に関する研究（新規）
 - ③ 児童生徒が自己の変容に気づき、資質・能力を伸ばすための指導方法と評価方法の在り方
 - ④ 全国学力・学習状況調査の実施及び結果分析
 - ⑤ 県立中学校入学者決定及び公立高等学校入学者選抜に関する調査研究
 - ⑥ 障害のある児童生徒が自立と社会参加するために必要な資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントに関する研究
- (2) 社会の変化に伴う今日的教育課題や本県の教育課題に即応した調査研究
 - ① これからの時代に生きる教員を育てる教員研修の在り方に関する研究（新規）
 - ② 教員の資質・能力の向上を図る能動的自立研修の活性化に関する研究（新規）
～能動的自立研修ツールの改定を通して～
 - ③ 各教科等の特性に応じたプログラミング教育の指導法に関する研究
 - ④ 高等学校授業ライブラリの在り方と活用に関する研究（新規）

【達成目標】

- ・令和元年度が計画の最終年次となる、下記5件の研究について、年度内に研究成果を取りまとめ、報告書等を作成して県内外に発信する。
- (1) 「児童生徒が自己の変容に気づき、資質・能力を伸ばすための指導方法と評価方法の在り方」
- (2) 「全国学力・学習状況調査の実施及び結果分析」
- (3) 「県立中学校入学者決定及び公立高等学校入学者選抜に関する調査研究」
- (4) 「障害のある児童生徒が自立と社会参加するために必要な資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントに関する研究」
- (5) 「各教科等の特性に応じたプログラミング教育の指導法に関する研究」

【目標の達成状況】

- ・下記2件の研究については、すでに、報告書等を作成・配付し、学力向上交流会等を通じ、広く県下に提供することができた。
- (1) 「全国学力・学習状況調査の実施及び結果分析」
- (2) 「県立中学校入学者決定及び公立高等学校入学者選抜に関する調査研究」
- ・下記3件の研究については、年度内に研究のまとめの発信に向けて着実に準備を進めている。
- (3) 「児童生徒が自己の変容に気づき、資質・能力を伸ばすための指導方法と評価方法の在り方」
- (4) 「障害のある児童生徒が自立と社会参加するために必要な資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントに関する研究」
- (5) 「各教科等の特性に応じたプログラミング教育の指導法に関する研究」

【総括・評価の理由】

- ・令和元年度末に完結予定の5件の調査研究については計画どおり終了する予定である。
- ・研究の中間年度の研究について、ほぼ計画通り進めている。新学習指導要領を踏まえ、県の教育施策及び各学校の教育活動を推進させるため、絶えず研究計画の修正、改善を図る必要がある。
- ・「高等学校における探究活動」については、「総合的な探究の時間」に焦点化することとし、モデルプランの在り方・支援の在り方を明らかにしてきている。
- ・「全国学力・学習状況調査」については、活用するための方策についても発信することができた。
- ・「障害のある児童生徒の自立と社会参加」については、個別の指導計画を適切に作成するための2つのシートを完成させ、授業実践の中で、その有効性について検証することができた。
- ・「プログラミング教育」については、不慣れな教員のためのガイドビデオや全国的に取組の進んでいない教科等の中で指導するためのプランを作成することができた。
- ・完結予定の5件の調査研究は計画どおり進捗し、より活用されるよう改善するとともに有効性の検証を進めてきた。また、中間年度の研究は、研究を進める中で計画を修正しニーズに対応した内容に改善している。そのため全体としては評価Aとした。

【今後の課題と対応】

- ・研究成果を今後の研修事業等の中で有効活用していく。
- ・完成した研究成果をWeb発信するとともに、研修事業等の中で紹介・活用することで、普及を進める。
- ・「全国学力・学習状況調査」については、報告書を配付するとともに、授業改善例として検証協力校の取組をWeb発信しており、継続していく。
- ・高等学校の「理数科」に関する研究を進める中で、「理数探究」については、探究活動の重視及び「総合的な探究の時間」の学習過程との親和性が高いことから、「総合的な探究の時間」の研究と同様にガイドブックとして提示できるように質を高めていく。
- ・教員の資質・能力の向上を図る能動的自立研修の活性化に関する研究については、eラーニング研修の改善の方向性を示すとともに、教員の資質向上及び授業改善に資するようガイドブックを作成する。
- ・学習指導要領改訂及び本県の教育課題に即した調査研究に取り組む。

B 研修・能力開発事業

【評価A】

【今年度の主な取組】

- (1) 次世代を担う初任・成長期教員の育成を支援する研修の充実
 - ・初任者研修では、新研修体系の研修、体験研修や異校種交流における協議等、主体的・能動的な研修体制を構築
 - ・フォローアップ研修、5年経験者研修、ステップアップ研修では各自の課題を追究
- (2) 地域の核となる推進・発達期教員の資質・能力向上を支援する研修の充実
 - ・中堅教諭等及び新任主任等の研修における教員の専門的な力量向上、校務推進、新研修体系を見据えた研修
 - ・長期研修制度を生かした本県教育の推進者の育成
- (3) 学校教育活動をリードする管理職及び深化・充実期教員の資質・能力向上を支援する研修の充実
 - ・特色ある教育活動や喫緊の課題への対応等、管理職向けの学校経営に関する研修
 - ・指導層教員としての識見・指導力を高め、学校組織マネジメントの考え方を活用する研修
- (4) 社会の変化に伴う今日的教育課題や本県の教育課題に対応した教職員研修の充実
 - ・プログラミング教育の推進
プログラミングデー in ちば 2019 (メディア：推薦)
小学校プログラミング指導教員養成研修 (メディア：希望)
 - ・「主体的・対話的で深い学び」を推進する教員の育成
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業デザイン研修(研修企画：希望)
高等学校におけるALの視点に立った授業づくり研修 (研修企画：推薦)
 - ・英語教育の推進
中・高等学校英語科教員英語力強化研修 (企画：推薦)
 - ・特別支援教育の推進
学びを支えるための支援研修 (特支：希望)
 - ・理科、家庭科、技術・家庭科及び産業教育の実験観察等に関する研修
創造力を育む「課題研究」の進め方研修 (科学：希望)

【達成目標】

- (1) 研修事業の見直しを図り、教員等育成指標の構成要素を位置付けるとともに、初任者研修とフォローアップ研修Ⅰ・Ⅱ、5年経験者研修・ステップアップ研修・中堅教諭等資質向上研修の内容を確認・整理し、新研修体系に向けた企画書を作成する。
- (2) 各研修事業に、研修生にとって「主体的・対話的で深い学び」となる要素を取り入れる。
- (3) B研修・能力開発事業の研修アンケートの満足度90%以上の研修割合を90%以上とする。
- (4) 希望研修の見直し・改善を行い、希望倍率を1.0以上とする。
- (5) ICTを活用し、研修内容の充実と事務作業の効率化を行う。
- (6) 研修履歴システム「Asttra」を試行、構築し、令和2年4月1日から本格運用を行う。

【目標の達成状況】

- (1) 研修事業のスクラップ&ビルドについて、令和元年度実施の研修事業数は、30年度比では1事業減とした。また、令和元年度実施研修事業の各講座内容に対して、指標の構成要素を位置付けた。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」を重視した内容・方法を全ての研修事業に導入した。演習やレ

ポートを基にした班別協議に加え、科学技術教育やメディア教育関係の研修では、実験・実習等体験型の研修を実施した。

(3) 研修アンケート結果(1月10日現在) 研修・能力開発 41 事業

・満足度 90%以上、37 事業 (90.2%)

(4) 希望研修の申込状況は、1.0 倍を上回る希望倍率となり、前年度比 0.06 ポイント増となった。

総セ全体 倍 率 本年度 4 月期 1.05 倍 (再募集した結果、最終倍率は 1.12 倍)

昨年度同期 0.99 倍

応募人数 本年度 4 月期 6,574 人 (再募集した結果、6,995 人)

昨年度同期 5,511 人

(5) ICT を活用した研修(初任者研修、フォローアップ研修Ⅰ、フォローアップ研修Ⅱ、中堅教諭等資質向上研修、特支新担研、長期研修、新任教頭研修)

e ラーニングを実施した研修(初任者研修)

(6) 研修履歴システム「Asttra」は、令和元年 6 月から 8 月まで、初任者研修受講者及び中堅教諭等資質向上研修の受講者や学校の管理職に対し、研修申込み等の試行運用を行い、令和 2 年 4 月 1 日本格運用に向けて、現在システムの構築を行っている。

【総括・評価の理由】

- ・「学校における働き方改革」推進プランが策定され、研修においても、日数や報告書の削減及び効率化など、教員の負担軽減が求められている。研修内容を新研修体系に向け整理し実施している。また、ICT を活用することにより出張の削減やレポートの一層の簡略化を行うことができた。
- ・「学習指導要領の改訂」を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の要素を導入するとともに、体験型の研修を取り入れた。管理職研修やミドルリーダー層の研修の一部で、組織マネジメントやカリキュラム・マネジメントの視点の研修を実施した。
- ・「教員の資質能力の向上」のために、研修後の振り返りを重視した。講師による指導、知識・技能の習得については一定の評価を得たが、自己の課題解決に至っていない研修もあることがわかった。
- ・研修生のニーズを把握し事業を再構成した結果、希望倍率、応募人数も前年度より増えた。
- ・教師塾・出前塾共に本センター作成のガイドブックの内容を十分に活用、周知することができた。
- ・研修履歴システム「Asttra」の試行運用は、研修申込、確認、集中運用によるサーバー負荷テスト等概ね良好の結果で終了した。
- ・目標の達成状況や、評価票 2 の研修・能力開発 41 事業のうち 37 事業 (90.2%) が A 評価だったので全体評価を A とした。

【今後の課題と対応】

- ・今年度同様に「学習指導要領の改訂」の趣旨を生かした研修を構築し、内容の周知・徹底を図る。
- ・新たな「千葉県教職員研修体系」に向け、キャリア・ステージごとに研修内容を整理する。また、現代的な課題に対応した研修内容を検討し実施する。
- ・免許更新講習の円滑な実施と中堅教諭等資質向上研修、専門研修との相互認定の仕組みをつくる。
- ・研修履歴システム「Asttra」の試行運用からの成果と課題を明確にし、令和 2 年 4 月 1 日本格運用に向け、現在システムの構築を進めている。

C 学校支援事業

【評価A】

【今年度の主な取組】

- (1) 地域・学校等からの要請に応える講師派遣
 - ・各地域・学校で行われる校内研修等へ講師を派遣
 - ・プログラミング教育や特別支援教育など専門的分野の領域の指導・助言
- (2) カリキュラムサポート室の充実及び情報提供
 - ・教育関係資料等の整備及び情報発信・提供・活用の促進
- (3) 調査研究成果の普及・活用促進
 - ・本年度の研究成果を発表する発表会を開催し、研究成果の普及・活用の促進
 - ・研究成果をまとめたガイドブック等の研修会での活用・広報の促進
 - ・「千葉教育」を通じ、最新の教育動向、各種研修の成果や県内教職員の実践を紹介

【達成目標】

- (1) 講師派遣は迅速かつ適切な派遣体制を定着させるとともに、教育団体等による研究協議会に協力委員を派遣する。また、今年度より実施報告書を作成し、成果を検証する。
- (2) カリキュラム関連情報の情報提供を積極的に行い、閲覧数を増加させる。
- (3) 調査研究の成果をまとめたガイドブック等の活用を目指す。

【目標の達成状況】

- (1) 各地域や学校からの依頼に対して、要請に応える専門性の高い講師を迅速に派遣した。適切な支援・助言を行い、肯定的な評価は100%（とても有効だった88.9%、有効だった11.1%）だった。
- (2) カリキュラムサポート室広報のちらしやポスターの各教育機関への配付、研修会での研修生への広報をし、5種類（校内研修、校内研修の手法とツール、授業づくり、学級づくり、資質能力）のガイドブックのアクセス数は、12月末現在、19,302件、前年度131%であった。
- (3) 昨年度末に調査研究の成果をまとめたガイドブックをWebアップした。ダウンロード数は「カリキュラム・マネジメントサポートブック」3,923件、「接続期のカリキュラムモデルプラン」4,136件であった。
「千葉教育」は、年6回の発行を予定していたが、都合により予定通りの発行に至らなかった。

【総括・評価の理由】

- ・講師派遣については、所員の専門性を生かした、講師を派遣できた。
- ・カリキュラムサポート室では、新学習指導要領に対応した教育書や各校種・教科の学習指導案や研究報告書の更なる充実に努めたが、広報の成果はまだ十分とは言えない。
- ・調査研究成果の普及・活用促進に当たっては、研究の成果を冊子にまとめたり、Webアップしたりし、広報や研修で活用を図ってきた。
- ・千葉県児童生徒・教職員科学作品展では、作品の質が向上し、保護者の熱意が高まり、科学技術への関心が向上してきている。
- ・各事業別に（１）「地域・学校等からの要請に応える講師派遣」については、依頼のあったものについては、講師を派遣している。実施報告書から、派遣の内容について肯定的な評価が多く、高い評価を受けているため、評価A。（２）「カリキュラムサポート室の充実及び情報提供」については、カリキュラムサポート室の利用者数は、前年12月末比98%であったため、評価B。（３）「調査研究成果の普及・活用促進」については、ガイドブックのアクセス数は、増加したため、評価A。

以上の各事業の評価を総合して、学校支援事業全体としては評価Aとする。

【今後の課題と対応】

- ・講師派遣では、プログラミング教育、特別支援教育に関する専門的な支援・助言を求める依頼が多く、対応する各部・各担当研究指導主事の資質・能力の向上をさらに図る必要がある。また、個々の派遣で受講生に満足度調査を行い、客観的なデータをもとに支援・助言内容の改善に努める。
- ・Webによる閲覧回数・ダウンロード数の増加及び調査研究の学校現場への広報や研修での活用促進を進める。
- ・調査研究の成果を学校で活用できるようにするため、Webにアップしたり、冊子にまとめたりして、学校や教育機関に配付する。

【今年度の主な取組】

(1) 日常の教育相談の充実

- ・個々の教育的ニーズに応じて、本人や保護者の気持ちに寄り添いながら、来所相談・電話相談・メール相談等を実施して、主訴の解決を目指す。
- ・所員の専門性向上及び相談ケースへの多面的で的確な対応を目指して、大学教授を招聘しての教育相談研修（講話・演習・ケース会議）を含めて研修の充実を図る。
- ・相談を始めるにあたり『見立て会議』を行い、部としての相談方針等の確認を図るとともに、相談担当者としての専門性の向上を図る。
- ・ケースに応じて、出張相談や研修会への講師派遣を行い、学校・相談者との三者連携を図る。

(2) 子どもと親のサポートセンターとの協働的な相談の実施

- ・発達障害等のある児童生徒や不登校等のある児童生徒に対して、子どもと親のサポートセンターとの連携会議を毎月1回行う等の協力体制のもと、二つのセンターがそれぞれの専門性を生かし、連携した教育相談を行う。
- ・両センターで連携した研修の充実を図る。

(3) 関係機関との相談連携の推進

- ・各研修事業や学校等支援事業の場を活用しながら、リーフレットを配付するなどし、教育相談事業の啓発及び周知を図る。
- ・特別支援教育課主催の会議や千葉県教育研究所連盟の会議等へ参加をするなど、関係機関との連携を深める。

【達成目標】

(1) - 1

就学前の幼児や学齢児を中心に、特別な教育的支援が必要な子どもや保護者の教育的ニーズに応じて、教育・養育等における指導・支援・助言を行い、教育相談による本人（保護者）支援を充実させる。

(1) - 2

教育相談に関する研修を充実させ、特別支援教育や教育相談担当者としての専門性を高める。

(2)

子どもと親のサポートセンター等の関係諸機関との連携体制を活用しながら、それぞれの専門性を生かした教育相談事業の充実を図る。

(3) - 1

総セ主催の研修事業において、リーフレットを配付し教育相談事業並びに出張相談についての周知を図る。

(3) - 2

各種会議への参加を通して、当センターの取組を周知するとともに、関係機関との連携を深める。

【目標の達成状況】

(1) - 1

来所相談では、相談者のニーズに応じて、医療相談、出張相談、諸検査の実施等をしながら、学校や関係機関と連携して、教育・養育等における指導・支援・助言を行い、教育相談による本人（保護者）支援を充実させた。また、来所相談では、昨年度に比べ『見立て会議』の実施回数を大幅に増やし、相談の方向性についてチームで検討するとともに、相談担当者としての専門性の向上を図った。

(1) - 2

所員・嘱託相談員全員を対象にした大学教授を招聘した教育相談研修を7回実施した。大学での障害者支援の状況や障害受容について講義していただいたり、事例検討会を通して、困難ケースへの対応等について助言をいただいたりして、教育相談に関する専門性の向上を図っている。また、障害者高等技術専門校への施設見学を実施したり、所員及び嘱託相談員が講師となり、各自の専門性を生かした「ミニ研修」も実施したりしている。

(2)

毎月の連携会議での情報交換等を『連携だより』として発行し、全所員に回覧することで、双方の相談事業について理解を深めるとともに、連携強化を図っている。また、子どもと親のサポートセンターが実施している研修会に参加するなど、職員の専門性の向上に努めてきた。

(3)

総セ主催の研修会や各種会議等の機会を利用してリーフレットを配付して、教育相談事業並びに学校等支援についての周知を図っている。また、千葉県教育研究所連盟の教育相談部会では、当センターの取組について発表する予定である。

【総括・評価の理由】

- ・来所相談件数は昨年度同時期に比べ11件減少しているが、相談回数は72回増加していることや、即時対応を意識して実施したことから、相談者の気持ちに寄り添った丁寧な対応ができたと考える。
- ・教育相談に関する研修を充実させて、大学教授を招聘した教育相談研修に加えて、所員による「ミニ研修」の実施、子どもと親のサポートセンター主催の研修会への参加を通して、相談担当者としての専門性の向上を図ることができた。
- ・高等学校生徒等の進路に関する相談の増加に伴い、障害者高等技術専門校への施設見学を実施して、相談者のニーズに応じた相談に対応できるようにした。
- ・特別支援教育相談体制の充実に関する三つの事業（日常の教育相談の充実・子どもと親のサポートセンターとの協働的な相談の実施・関係機関の相談連携の推進）において、すべてA評価のため教育相談事業の総合評価をAとした。

【今後の課題と対応】

- ・今年度同様に、所員の専門性の向上のために、大学教授を招聘した教育相談研修を含めた研修会の充実を図るとともに、子どもと親のサポートセンターと協働した取組を充実させる。
- ・関係機関との連携を活用して、相談事業の啓発及び周知を推進する。
- ・障害特性だけでなく、不登校やいじめなどを含む複雑なケースの相談も増えていることから、子どもと親のサポートセンターとの連携協力体制を生かし、多面的なニーズに対応していく。
- ・個々の教育的ニーズに応じて、本人や保護者の気持ちに寄り添いながら課題解決を図るため、引き続き学校等との連携や学校等支援の充実に努める。

5 評価票 2

事業 A 調査研究事業

A 調査研究事業

(1) 各教科・領域・学校経営等に関する基礎的・実践的な調査研究と現場への還元

事業 A - (1) - ①

| 事業名 | 高等学校における探究活動に関する研究～「総合的な探究の時間」を通して～ 【新規】 | 評価 A |
|--------------------|--|---------|
| 担当部班名 | カリキュラム開発部研究開発担当 | |
| 事業概要 | <p>令和元年度から令和3年度の3年間にわたり、課題を発見し、解決するために必要な資質・能力を育成するための探究活動</p> <p>いて、千葉県的高等学校において「総合的な探究の時間」における探究活動を進めるための指導過程の全体計画・年間指導計画・単元計画のモデルプランを作成し、県内高等学校等に配付する。</p> | |
| 実施内容 | <p>令和元年度は、「総合的な探究の時間」における探究活動の一般的概念や指導過程についての基礎研究を行うとともに、全体計画・年間指導計画・単元計画のモデルプランを作成し、先進的な実践を行っている高等学校（3校）の実践事例を紹介する。県内高等学校において「総合的な探究の時間」の計画、実施が速やかに進められるよう、上記内容を盛り込んだ簡便な冊子を作成し、県内高等学校等に配付する。</p> | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <p>事業の効果（成果・課題・評価の理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、計4回の研究協力員会議を行った。第1回会議においては、文部科学省及び国政研から講師を迎え、高等学校における「総合的な探究の時間」の在り方について学んだ。第3回会議では、袖ヶ浦高等学校において研究協力員による授業を参観する機会を持った。4回の会議を通じ、今年度の研究の在り方を共有するとともに、モデルプランの在り方、及び探究活動における教師の支援の在り方についての協議を進めることができた。 「総合的な探究の時間」の全体計画、年間指導計画、単元計画の3つのモデルプランを作成し、その形式と内容について話し合いを重ねた。各校の実践に基づき、それぞれの学校におけるプランを具体的に作成してもらった。 3校に複数回ずつ（12月半ばまでにのべ13回）、授業参観（または活動参観）に行き、探究活動における教師の支援の在り方や生徒の活動の状況を研究してきた。 当初の計画通り、「総合的な探究の時間」の基礎研究に基づき、指導計画のモデルプランを作成し、実践校における取組から探究活動の指導の在り方についてまとめることができたことから、今年度の評価はAとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <p>今後の取組の方向性（改善策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」における探究活動をまだ本格的に実施していない高校に、モデルプランにしたがって計画を作成し、実施してもらう。 上記高校に取材し、その結果から、モデルプラン及び教師の支援の在り方について、修正を加える。 「総合的な探究の時間」で、生徒が探究活動を通じて行ってきた学びの評価の在り方について、大学入試等でどう生かすかという観点を含め、研究する。 | |

事業A - (1) -②

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | 高等学校の新教科「理数科」に関する研究【新規】 | 評価 B |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部科学技術教育担当 | |
| 事業概要 | 高等学校学習指導要領改訂に伴い、令和4年度より新教科「理数科」が選択教科として設置されることを受け、学校現場の先生方が新教科「理数科」について理解を深め、円滑に授業を進めることができるようにするための調査研究を行う。(令和元年度～2年度) | |
| 実施内容 | 未実施の教科であるため、現行の「理科課題研究」を実施している高等学校3校を研究協力校として委嘱し、校内組織、年間計画、授業の進め方、評価方法などについて各学校の授業の様子や担当教員からの聞き取りを中心に授業づくりに役立つ冊子を作成することで、新教科「理数科」普及・充実の一助とする。 | |
| 事業の効果(成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> 年間を通じてのべ19回、研究協力校を訪問して取材を行うことを通して、授業の開設に必要な校内体制や年間計画、授業づくりに必要な指導方法、評価方法などについて知ることができた。 オリエンテーションや課題設定などの実践事例を取材できなかつたため、研究ノートや発表内容から分析し見取っている。 年度始めの指導内容を直接取材できなかつたため評価Bとした。 | |
| 今後の取組の方向性(改善策等) | <ul style="list-style-type: none"> 次年度も、引き続き取材を重ねるとともに、よりわかりやすい内容になるよう実践事例を加えて冊子『「理数科」の進め方(仮称)』を発行する。 | |

事業A - (1) -③

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 児童生徒が自己の変容に気づき、資質・能力を伸ばすための指導方法と評価方法の在り方 | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部科学技術教育担当 | |
| 事業概要 | 平成27年度から29年度の3年間にわたり、理科の学習指導を中心に科学的思考力を高めるための効果的な指導方法や、自己の変容を実感できる評価の在り方について調査研究を行い、4つの学習資料を開発した。今年度からは、この4つの学習資料を他教科にも応用し、より広く児童生徒の資質・能力を伸ばすことを目指す。(平成30～令和元年度) | |
| 実施内容 | これまで開発した指導方法の資料2種(「コア知識を活用したコミュニケーション活動に役立つカード」、「自由記述式観察実験シート」と評価方法の資料2種(「OPPシートを活用した児童生徒の変容がわかる評価」、「4段階ルーブリック」)を教科の特性に応じて修正を施し、他教科に応用できるか、実際に研究協力校で授業を行い、効果を検証した。 | |
| 事業の効果(成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> 年間を通して2回の研究協力員会議を行い、指導方法と評価方法、及び資料の検討を行うとともに、県内5か所の学校(小学校4校、中学校1校)において、検証授業を行った。 道徳で「振り返りシート」、算数科で「ルーブリック」、社会科で「コミュニケーションカード」、家庭科・算数科で「自由記述式観察実験シート」を各教科、単元、子供の発達段階に応じて修正し、検証授業を行った。その結果、理科以外の教科で活用する場合は、4つのシートの原理とその教科の特性を理解した上で、修正を加えることにより、有効性を認めることができた。 理科で有効性が認められた4つの学習資料を、教科の特性に応じて修正を施すことで、理科以外の教科でも学習効果があることを検証できたので評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性(改善策等) | <ul style="list-style-type: none"> 2年間の研究の成果をまとめた冊子を配付し、指導の改善に役立ててもらおう。 | |

事業A - (1) -④

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 全国学力・学習状況調査の実施及び結果分析 | 評価 A |
| 担当部班名 | 学力調査部企画調査担当 | |
| 事業概要 | 全国学力・学習状況調査を実施し、その結果を分析して、千葉県の成果と課題を明らかにするとともに、市町村及び学校ごとの指導改善を支援する。 | |
| 実施内容 | リーフレット（9月）及び分析結果報告書（11月）の作成・配付。学習指導課の学力向上事業（研修会・学力向上交流会等）への協力。 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の本県の結果を報告するリーフレットの作成において、課題が一目瞭然となるように工夫した。また、リーフレットを全ての公立小・中学校等に配付すると共に、学力向上交流会で説明する際の資料として活用した。 ・分析結果報告書は、学校での指導改善の参考となるページを加えて作成し、全ての公立小・中学校等に配付した。 ・学力向上のための研修会で、全国学力・学習状況調査の結果の活用事例を具体的に示した。 ・年度初めの計画どおりに事業を実施することができたこと、全国学力・学習状況調査の「結果」の発信に留まることなく「活用するための方策」も発信できたことから、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・分析結果報告書を、学校での指導改善に更に活用できるよう、改善していく。 | |

事業A - (1) -⑤

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 県立中学校入学者決定及び公立高等学校入学者選抜に関する調査研究 | 評価 A |
| 担当部班名 | 学力調査部県立中学校担当及び公立高等学校担当 | |
| 事業概要 | 県立中学校入学者決定及び公立高等学校入学者選抜の制度に関する調査研究を行い、本県における制度の改善に役立てる。公立高等学校入学者選抜については、各教科の平均点等、入学者選抜の結果を公表し、県内中学校生徒の学力向上に資するデータを提供する。 | |
| 実施内容 | 県立中学校入学者決定及び公立高等学校入学者選抜に係る実施要項・実施細目・願書等の作成。公立高等学校入学者選抜の結果をWeb上で公表するとともに、指導主事会議等で報告。 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・県立中学校入学者決定及び公立高等学校入学者選抜に係る実施要項・実施細目・願書等を作成し、関係部署に配付した。 ・公立高等学校入学者選抜の結果の冊子を作成し、指導主事会議等で配付、報告した。 ・年度初めの計画どおりに事業を実施することができたこと、学習指導課と連携して公立高等学校入学者選抜の制度に関する調査研究を実施し本県の制度改善に寄与することができたことから評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・県立中学校入学者決定及び公立高等学校入学者選抜に係る資料の改善を検討する。 ・公立高等学校入学者選抜の分析結果を、指導改善に更に活用できるよう、充実させる。 | |

事業A - (1) - ⑥

| | | |
|--|---|---------|
| 事業名 | 障害のある児童生徒が自立と社会参加するために必要な資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントに関する研究 ～障害種の異なる特別支援学校の実践から～ | 評価 A |
| 担当部班名 | 特別支援教育部 | |
| 事業概要 個別の指導計画の作成に役立つ実態把握から目標設定ができる2種類のシートを作成し、これらを用いて、特別支援学校7校で授業実践を行い、シートの有用性を検証する。(平成30年、令和元年度) | | |
| 実施内容 特別支援学校でのカリキュラム・マネジメントについて、調査研究協力員会議(年4回)、並びに研究係会(週1回)において研究を進めた。具体的には、本研究で開発及び検討した各教科等と自立活動の視点から具体的な目標設定ができるシートを使って、児童生徒の実態把握を改めて行い、目標を設定した。シートを使った教員から各シートについて感想や改善点等を聞きとり、シートの見直しを行うとともに、実際に授業実践を行い、授業の工夫や次年度の教育課程について検討を進めた。 | | |
| 事業の効果(成果・課題・評価の理由) これまでに作成した、各教科等並びに自立活動の視点から具体的な指導内容を設定できるシートを用いて検討・検証を進めた結果、以下の成果がみられた。 ・実態把握を改めて行い、より児童生徒一人一人に応じた指導目標を設定することができた。 ・設定した指導目標を基に、授業での具体的な指導内容や支援等について検討することができた。 ・授業実践で取り組んだ授業について、個別の指導計画の目標及び評価を行い、次の単元並びに次年度の教育課程について振り返りを行い、具体的に見直しを行うことができた。 ・講師の指導助言や研究協力員等の協力により、各校において多数の授業実践を行い、シートの有用性を検証することができた。研究の成果をセンターWeb ページに掲載したり、リーフレットを各学校に配付したりする見通しが立てられたため、A評価とする。 | | |
| 今後の取組の方向性(改善策等) ・開発した目標設定シート及びツール、さらに各校の取組をWeb上に公開し、広報する中で教職員への周知を図る。 ・総セ主催の研修事業の中に、成果を報告・周知する機会を設定する。 ・特別支援教育部と連携して、特別支援学校に研究成果の周知を図る。 | | |

(2) 社会の変化に伴う今日的教育課題や本県の教育課題に即した調査研究

事業A - (2) - ①

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | これからの時代に生きる教員を育てる教員研修の在り方に関する研究【新規】 | 評価 B |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部研究開発担当 | |
| 事業概要 | 様々な教育課題への対応や教員の資質・能力の向上の必要性が高まる中、これからの時代に生きる効果的な校内研修の在り方を明らかにする。また、校内研究のガイドブックを作成し、県内の小・中・高校、特別支援学校に配付する。(令和元年度～令和2年度) | |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> 校内研究の進め方とeラーニングの活用等、効果的な研修の在り方について調査研究していく。 令和元年度は、校内研究の実際について実態把握や先進校への視察を行った上で、校内研究モデルプランを作成していく。また、eラーニングについては、今年度の受講者への調査等により実態を把握した上で、効果的な活用について検討し、次年度のeラーニングを使つての研修に反映させていく。 | |
| 事業の効果(成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> 校内研究については新任研究主任110名に、eラーニングの活用等効果的な研修の在り方については研修生945名にアンケートを実施し、集計及び分析を行った。 校内研究会の実態把握のため小・中・高等学校、特別支援学校への視察を計9校にのべ13回実施した。 校内研究ガイドブックの試案の作成を進めている。(今年度中に作成) 来年度の総セでのeラーニング研修に向けて、改善の方向性について研修企画部と相談の上で示せた。 年度初めの計画どおりに事業を実施してきたが、校内研究ガイドブックの試案は、作成途中であるためB評価とした。 | |
| 今後の取組の方向性(改善策等) | <ul style="list-style-type: none"> 校内研究については、実証校による実践及び検証を通して、ガイドブックの改善をして完成させる。ガイドブックは県内の小・中・義務教育学校・高等学校・特別支援学校に配付する。 総セで行われるeラーニング研修での改善事項について、アンケート等を通して検証する。また、さらに検証をもとに、令和3年度のeラーニング研修の改善の方向性を示す。 | |

事業A - (2) - ②

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | 教員の資質・能力の向上を図る能動的自立研修の活性化に関する研究～能動的自立研修ツールの改訂を通して～【新規】 | 評価 B |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部研究開発担当 | |
| 事業概要 | 千葉県・千葉市教員等育成指標(平成30年3月7日策定)に従つて能動的自立研修ツールにおける自己評価表の項目の見直しを図り、調査集計を行い、能動的自立研修ツールの改訂を行う。 | |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> 自己評価表の項目を千葉県・千葉市教員等育成指標の16項目に振り分け整合性等を確認し、新しい項目に関わる評価内容を作成する。また、職種として栄養教諭を新しく設定する。 評価項目の変更に伴い、ツール全体の整合性を確認し、加除修正を行う。 | |
| 事業の効果(成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> 自己評価表の内容については、専門部署や専門機関からの助言、研修生の意見等を聞きながら、作成を進めることができた。 ツールのシステム変更にあたり、他班の協力を得ながら進めることができた。 自己評価の県平均データについては、調査対象の負担軽減のため来年度の研修で収集することとした。 令和元年度末に改訂版の完成ができないためB評価とした。 | |
| 今後の取組の方向性(改善策等) | <ul style="list-style-type: none"> 来年度の研修(悉皆、推薦、希望)において、各ステージ層のデータ収集を行い、データ更新を定期的に行っていく。 令和3年度よりツールを活用した研修の運用を行う。 | |

事業A - (2) - ③

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 各教科等の特性に応じたプログラミング教育の指導法に関する研究 | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部メディア教育担当 | |
| 事業概要 | 小学校における各教科等の特性に応じたプログラミング教育の指導法に関する研究に取り組み、検証授業を通して、モデル指導案を作成し、公開する。 | |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> どの学校でも、どの教員でもプログラミング教育を行うことができるようにするための一方策として、「Hour of Code (古典的な迷路)」のガイドビデオを作成し、学校現場に周知する。 今年度は、プログラミングに関する学習活動のB分類（学習指導要領に例示されていないが、学習指導要領に示される各教科等の内容を指導する中で実施するもの）に焦点をあて、検証授業を通して、モデルプランを作成し、公開していく。 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ガイドビデオは初めてプログラミングの授業をする教員でもすぐ利用できる内容とし、Web上に公開した。さらにリーフレットや研修等を通じて周知することで、活用推進を図ることができた。 B分類において、新たに5つのモデル指導案を作成することができた。 ガイドビデオやB分類のモデル指導案等、他県であまり取組が進んでいないものを作成、公開できたため、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> 開発したモデルプランをWeb上に公開するとともに、研修事業の中で紹介するなど広く普及に努め、その有用性について検証していく。 中学校におけるプログラミング教育の指導法についても、今後研究を進めていく予定である。 | |

事業A-(2) - ④

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | 高等学校授業ライブラリの在り方と活用に関する研究【新規】 | 評価 B |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部研究開発担当 | |
| 事業概要 | 優れた授業実践を収集し、指導案及び授業動画等をデータベースとして構築・提供することで、高等学校において、教職員一人一人が「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を進めることができるようにする。 | |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> 10本の授業コンテンツを作成する。 本年度から、学習指導課の教科研究員制度を活用し、授業コンテンツを作成する。 活用される授業コンテンツにするため、動画の構成を改善するとともに業者に委託して編集する。 データベースとして構築し、高等学校の教職員が校務用PCを用いて視聴することができるように配信する。 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> センターWebサイトに掲載し、これまで作成した30本の授業コンテンツの配信を開始した。学習指導案及び授業動画等は県が契約しているクラウドにアップすることで、県立学校職員だけが視聴することができるよう管理できる。 計画通り10本の授業コンテンツの作成を進めている。このうち6本は、教科研究員の授業実践を収録し授業コンテンツに加えた。 動画編集作業を民間業者に委託して行うようにした。これにより、民間業者のノウハウを活かし、より視聴しやすいコンテンツにするとともに、センター所員の負担軽減を図ることができた。 授業コンテンツを活用しての研修事業を開催し、研究成果の活用推進を図ることができた。 10本の作成及び配信を実施できたが、配信が8月となるなど進捗が遅れたため評価Bとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> 保健体育科の授業コンテンツを加えるようにする。 本ライブラリの授業コンテンツ数を令和3年度までに80本となるよう作成を進める。そのために、令和2・3年度のそれぞれで、20本の授業コンテンツを作成する。 | |

B 研修・能力開発事業

事業B 研修・能力開発事業

(1) 次世代を担う成長期教員の育成を支援する研修の充実

事業B- (1) -①

| | | |
|---------------------|---|---------|
| 事業名 | 幼稚園等初任者研修 (悉皆) | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部実践力向上担当 | |
| 事業概要 | 幼稚園等初任者に対し、1年間の職務遂行に必要な事項に関する研修を実施し、使命感や実践的指導力を養うとともに幅広い知見を習得させる。 | |
| 実施内容 | 保育参観、学級経営、集団遊びの指導方法、保護者との関係づくり、小学校教育との接続、事故対応、幼児虐待への対応、ユニバーサルデザインを含む特別支援教育など今日的課題の研修を実施。また、班別協議等に幼児教育アドバイザーを活用し実践力向上を図った。(168名、10日) | |
| 事業の効果 (成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> ・実技、参加型の研修を多く実施したため実践力が向上し、指導技術の向上につながる研修となった。 ・事故対応等の今日的課題研修を通して、教員としての使命感、実践的指導力を養う研修となった。 ・受講生の振り返りアンケートの6項目すべてにおいて、肯定的な回答(「大変そう思う」「おおむねそう思う」)の合計が90%以上だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性 (改善策等) | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育は日頃の具体的実践力が大切になることから、実技や演習の充実が必要である。ベテラン教員、幼児教育アドバイザー、幼児教育アドバイザー育成研修修了者を活用していきたい。 ・班別協議や参加型の研修をより多く取り入れ、より実践的な研修を取り入れていきたい。 | |

事業B- (1) -①

| | | |
|---------------------|---|---------|
| 事業名 | 小学校初任者研修 (悉皆) 【内容変更】 | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部基礎力育成担当 | |
| 事業概要 | 小学校初任教諭に対し、実践的な研修を実施し、教員としての使命感や実践的指導力を養うとともに幅広い知見を習得させる。 | |
| 実施内容 | 校外研修の内容の精選を図り、日数を15日に変更するとともに、「共通研修」「校種別研修」「選択研修」の3層で行う形に変更した。校種別研修では、幼児教育との円滑な接続及びよりよい連携の在り方について学ぶ研修として、「幼保小の連携と接続」を新たに設定した。(517名、15日) | |
| 事業の効果 (成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> ・各研修において、講師との事前の打ち合わせ等により、グループワークの活動が取り入れられ、研修生が能動的に参加できる内容となった。 ・新設した研修については、「初めて知った」「重要性を理解できた」などの肯定的な回答が多かった。 ・受講生の振り返りアンケートの6項目すべてにおいて、肯定的な回答(「大変そう思う」「おおむねそう思う」)の合計が90%以上だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性 (改善策等) | <ul style="list-style-type: none"> ・「選択研修」の内容については、次年度も教科を選択する形とするが、例年、希望教科に偏りがあるため、選択教科の組み合わせの仕方について再考する。 | |

事業B- (1) -①

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 中学校初任者研修（悉皆）【内容変更】 | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部基礎力育成担当 | |
| 事業概要 | 中学校初任教諭に対し、実践的な研修を実施し、教員としての使命感や実践的指導力を養うとともに幅広い知見を習得させる。 | |
| 実施内容 | 校外研修の内容の精選を図り、日数を15日に変更するとともに、「共通研修」「校種別研修」「選択研修」の3層で行う形に変更した。校種別研修では、今日的課題として、「日本語能力が十分でない子供への指導の実践」「いじめ・不登校への対応の基本」などについての研修を行った。(243名、15日) | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 班別協議等初任者同士の意見交換をする機会が多くあり、いろいろな人の意見を聞くことができ、子供たちを指導する際の参考になり、より実践的な研修となった。体験研修は、初任者の視野を広げ、日々の教育活動に生かすことができる研修となった。 ・ 受講生の振り返りアンケートの6項目すべてにおいて、肯定的な回答（「大変そう思う」「おおむねそう思う」）の合計が90%以上だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・ eラーニングについては、研修生にとって学びやすい環境やコンテンツを準備していく必要がある。 ・ これまでの研修内容を継続しつつ、研修生のニーズ等も考慮し、研修内容をより充実させていく。 | |

事業B- (1) -①

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 高等学校初任者研修（悉皆）【内容変更】 | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部基礎力育成担当 | |
| 事業概要 | 高等学校初任教諭に対し、実践的な研修を実施し、教員としての使命感や実践的指導力を養うとともに幅広い知見を習得させる。 | |
| 実施内容 | 校外研修の内容の精選を図り、日数を15日に変更するとともに、「共通研修」「校種別研修」「選択研修」の3層で行う形に変更した。また、校種別研修では班別協議を実施し、グループによる演習や協議を多く取り入れるようにした。(255名、15日) | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 講話、演習等でお互いの意見を交換できる形式や具体的な実践例の紹介等「わかりやすい」研修が多かった。指導助言者を40名以上揃えたり、指導助言者が複数年担当していたりすることもあり、講師や指導助言者の依頼について、検討を要する。 ・ 受講生の振り返りアンケートの6項目すべてにおいて、肯定的な回答（「大変そう思う」「おおむねそう思う」）の合計が90%以上だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 初任者の増加に伴って、班別協議の指導助言者が一層必要になるので、人材の新規開拓が急務である。 ・ 共通研修や選択研修で、他校種とのかかわりが多くなる一方で、内容によっては十分な協議や演習の時間がとれない研修もある。せっかくの機会なので、それぞれの校種での対応の違い等も学べるよう講師と相談の上、有意義になるよう運営していきたい。 | |

事業B- (1) -①

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | 特別支援学校初任者研修（悉皆）【内容変更】 | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部基礎力育成担当 | |
| 事業概要 | 特別支援学校初任教諭に対し、一年間の職務遂行に必要な実践的な研修を実施し、教員としての使命感や実践的指導力を養うとともに幅広い知見を得させる。 | |
| 実施内容 | 校外研修の内容の精選を図り、日数を15日に変更するとともに、「共通研修」「校種別研修」「選択研修」の3層で行う形に変更した。校種別研修では、「障害者の就労と生活を支える」「障害者の福祉制度」「未来の障害者」「これからの特別支援教育」等、特別支援教育や障害児者を取り巻く現状について、多面的に学べるようにした。(179名、15日) | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> 講師との打合せ等により、協議や体験を多く取り入れ、能動的に参加できる研修が多くなった。選択研修②「優れた授業実践から学ぶ」では、研修生のニーズに応じて校内外の様々な授業実践を参観し、自身の実践の参考にすることができた。 受講生の振り返りアンケートの6項目すべてにおいて、肯定的な回答（「大変そう思う」「おおむねそう思う」）の合計が90%以上だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> 障害種や対象年齢を超えて特別支援教育を理解し、実践力を身につけることにつながるように、生活班の編成を工夫したり、グループ協議を多く取り入れたりする必要がある。 | |

事業B- (1) -②

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | フォローアップ研修Ⅰ（悉皆） | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部基礎力育成担当 | |
| 事業概要 | 初任者研修1年目を終えた小・中・高・特支の経験2年目教員が、自己の課題を持ち寄り、課題探究を図る。 | |
| 実施内容 | 小・中：班別協議では、様々な思考ツールや手法を協議前に示し、受講者自身が目的に応じた方法を選択できるようにした。発表を屋台方式で行うことにより、全体共有の場を設定した。高：班別協議では、従来のレポートによる協議に加え、試行ツールの利用方法等を検討した。(1,223名) | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> 午前中の研修は、各校種ともに講話の内容が適切で研修に集中して取り組んでいた。 午後の班別協議では、活発に話し合う姿が見られ、教育実践上の新たな課題、研究テーマへの足掛かり等を各自がつかんだようである。 受講生の振り返りアンケートの6項目において、肯定的な回答（「大変そう思う」「おおむねそう思う」）の合計が90%以上だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> 勤務する地区（小・中）、勤務する学校の障害種、学部等（特支）が入り混じる等、班編成を工夫していく。 新体系研修への移行に伴い、次年度から2年目研修となる。 | |

事業B- (1) -④

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 5年経験者研修（悉皆） | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部基礎力育成担当 | |
| 事業概要 | 教職経験5年を経過した教諭等に対し、視野を広げる実践的な研修を実施する。併せて、職場でのリーダーシップの育成を図る。 | |
| 実施内容 | 教職7年目までの若手教員チームのリーダー育成のための研修（倫理観の高揚、グローバル人材の育成、ミドルリーダーとしての在り方）、学級経営・学習指導・生徒指導、教育相談等に関する実践的な研修、能動的自立研修ツールを活用した課題探究研修（1,012名、3日） | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員チームリーダーとして、学年・学校運営に携わっていく意識と幅広い視野の構築に繋がった。 ・「課題探究研修」では、能動的自立研修ツールの活用や班別協議を通じて、現在の自分の課題に向き合うとともに次年度以降の自主研修等の方向性を見出すことができた。 ・参加者アンケートにおける満足度が全校種平均91.3%だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・新研修体系への移行（中堅教諭等資質向上研修の改編）に伴い、次年度以降、発展的解消となる。 | |

(2) 地域の核となる発展期教員の資質能力向上を支援する研修の充実

事業B- (2) -①

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 中堅教諭等資質向上研修（悉皆）【内容変更】 | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部実践力向上担当 | |
| 事業概要 | 教職経験10年を経過した教諭に対し、現代的な課題にかかる研修から、意識の改革、視野の拡大、専門性、学校運営に参画する教師力を身に付けることができるようにする。 | |
| 実施内容 | 教員としての倫理観、子供を取り巻く今日的課題、「主体的・対話的で深い学び」に向けての教科研修、校務を推進する手立て、いじめ防止のための人間関係づくり、保護者との信頼関係づくり、カリキュラム・マネジメント、研修の計画や成果についての協議等に関する実践的研修（764名、10日） | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」に関する教員の資質・能力向上を図り、今日的課題とも関連させ、資質・能力の育成に取り組んだ。また、研修の成果についてグループ協議を行い、実践的な研修を行った。 ・能動的な研修を効果的に組み合わせることにより、受講者のニーズにあった研修ができた。 ・受講生の振り返りアンケートの6項目すべてにおいて、肯定的な回答（「大変そう思う」「おおむねそう思う」）の合計が90%以上だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・来年度から新研修体系となるため、対象者や研修内容の変更等を明確にしながらか混乱の無いよう周知をしていくとともに、対象者の増加や研修内容の変更による運営面の工夫について検討する。 ・免許状更新講習必修領域との相互認定に加え、選択必修領域の研修を実施する。 | |

事業B- (2) -②

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 新任研究主任研修（推薦） | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部実践力向上担当 | |
| 事業概要 | 校内研修の中心的な存在である研究主任として、校内研修の具体的な進め方を知り、研修の活性化を図るなど職務遂行に必要な事項に関する実践的な研修を実施し、企画力・指導力の向上を図る。（小中学校教員116名、2日） | |
| 実施内容 | 校内研修の進め方、先輩研究主任から学ぶ、プレゼンや集計処理ソフト演習・研究発表（自校の研究成果のプレゼン協議）、新学習指導要領、カリキュラム・マネジメントの理解 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・「校内研修の手法」「先輩研究主任から学ぶ」を通して、実践的な校内研修の進め方を理解した。 ・第1回のICT実技研修、第2回の実践成果の班別プレゼン及び協議により、他校の実情の理解とともに、自校の成果と課題が明確になり評価をもとにした今後の実践に生かせる研修となった。 ・受講生の振り返りアンケート結果の肯定的な回答が90%以上だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領やカリキュラム・マネジメントについての理解・実践をより深める研修が必要である。 ・推薦研修のため、新任研究主任全員が参加できない現状を改善できないか検討したい。 | |

④長期研修

事業B-(2)-④

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | 長期研修（推薦） | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部実践力向上担当 | |
| 事業概要 | 教育研究に関わる知識・技能を習得するとともに、各自が設定した研究主題に基づき指導内容や、指導方法、評価の内容・方法等を追究する。 | |
| 実施内容 | 県の教育施策、長期研修の在り方、研究の進め方、研究計画の検討、思考ツールの活用方法、ICT機器の活用、プログラミング教育、論文の書き方、検証授業の概要報告、研究・研修報告書の検討、研究・研修の成果の発表（65名、10日） | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・研究の作法（論文の構成、引用の仕方及び参考文献の掲載等、論文作成上の留意点）についての講義から、それまでの研究の過程を振り返ることができた。 ・班別での協議を深め、自身の研究主題を追究し、県の教育の向上に資する成果があげられる内容が見込まれる。 ・各自の中間の業績評価が「概ね達成」であったため、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・教科等・特別支援教育・教育臨床と企業等派遣で、研修内容をより明確にする。 | |

(3) 学校教育活動をリードする管理職及び充実期教員の

資質能力向上を支援する研修の充実

事業B- (3) -①

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 新任校長研修 (悉皆) | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部実践力向上担当 | |
| 事業概要 | 特色ある教育活動の推進や喫緊の教育課題に組織的に対応する等適切な学校経営を推進するための専門的・実践的な研修を実施し、学校経営能力や危機管理能力等の向上を図る。 | |
| 実施内容 | 規範意識とリーダーシップ、カリキュラム・マネジメントの具体化、生徒指導の推進、「チーム学校」の具体化、特別支援教育（合理的配慮について）、学校経営上の課題と校長の役割（班別協議）、ICTを活用した授業展開（プログラミング教育）。（237名、3日） | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育、LGBTの理解と対応、カリキュラム・マネジメントなど今日的な課題についての講義や演習が役に立ち、新たな認識をもったという感想が多かった。学校経営課題についての班別協議は、具体的に困っていることについて話し合いができて自校の課題解決につながる協議となった。 ・参加者アンケートにおける肯定的評価が90%以上だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容をさらに焦点化し、時間設定をしたい。カリキュラム・マネジメントの具体的な視点や新しい学習指導要領を踏まえた国の動きを理解するなど、校長として学校経営に直接かかわる研修の充実を目指す。また、いじめ問題やLGBTの理解など人権教育にかかる研修についてさらに進めたい。 | |

事業B- (3) -②

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 「チーム学校」リーダー研修 (推薦) | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部基礎力育成担当 | |
| 事業概要 | 校長、副校長、教頭及び市町村立学校事務長級事務職員に対し、学校組織マネジメントの理論や手法を取り入れたチーム学校力を高めるための実践的な研修を通して、学校管理職等の経営能力や危機管理能力等の育成を図る。 | |
| 実施内容 | 自校の学校経営ビジョンの立て方（班別協議）、個々の力を生かすチーム力、自校の経営重点の取組（班別協議）、マスコミ対応、危機管理と在り方、学校マネジメントの考え方、LGBTの現状と課題、カリキュラム・マネジメントの課題と取組（班別協議）等（190名、3日） | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・管理職や事務職員として必要不可欠な様々な研修内容が実践され、資質・能力の向上が大いに図れた。 ・民間有識者の講話を設定して、管理職及び事務職員としての知見の向上につながる研修となった。 ・学校種別、職種を交えた班別研修を行うことで、それぞれの立場での有意義な情報交換ができた。 ・参加者アンケートにおける満足度が93.41%だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を精選して研修日を3日間から2日間にする。講師による集合研修と班別協議研修をバランスよく構成することで受講者にとって魅力ある研修内容に作り上げる。 | |

事業B - (3) -③

| | | |
|--|----------------|---------|
| 事業名 | 主幹教諭研修（悉皆）【新規】 | 評価 B |
| 担当部班名 | 研修企画部実践力向上担当 | |
| 事業概要 教員の業務改善について、主幹教諭として学校運営に参画するための知見と企画力を身に付ける。 | | |
| 実施内容 業務改善について様々な角度からの研修。講話「校務のICT化を推進する工夫と実際」「学校における働き方改革の工夫と実際」、班別協議「業務改善について～他校の実践に学ぶ～」。班別協議は事前レポート提出、班別協議、講師指導。（1日160名） | | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） <ul style="list-style-type: none"> ・班別協議は有効だった。特に学校種別にしたことにより、校種特有の課題や学校経営への参画意識など具体的に話し合えた。 ・9月中旬の開催で、学校行事と重なりを考慮する必要がある。 ・主幹経験年数に開きがあり、それぞれの年数層により課題意識が違い、評価が分かれ、参加者アンケートにおける満足度が80.5%だったため、評価はBとした。 | | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） 新任主幹教諭研修と統合し、新任主幹教諭研修の2日目に経験者主幹教諭が参加し、経験者として新任主幹教諭に経験から得た事等、班別協議を行い研修効果の向上を図る。 | | |

事業B- (3) -⑤

| | | |
|---|--------------------|---------|
| 事業名 | 幼児教育アドバイザー育成研修（推薦） | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部実践力向上担当 | |
| 事業概要 各市町村における幼児教育の推進体制構築に向けて、市町村リーダーの育成を目指すとともに、幼児教育の更なる質の充実を図る。 | | |
| 実施内容 これからの幼児教育の方向性、幼児期に育成すべき資質・能力、幼児教育アドバイザーの取組、幼児教育の質を高めるリーダーの役割、平成30年度受講者による実践発表、先進地域（栃木県）の事例発表、各市町村の接続期のカリキュラムについて、研修の企画・立案について（班別協議）（73名、2日） | | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） <ul style="list-style-type: none"> ・班別協議が有効だった。様々な立場での悩みや問題点を話し合うことで視野が広がった。特に、地域別の取組を知る中で、自分の地域の課題に気づくことができた。先進市事例発表はとても参考になり課題解決につながる研修となった。 ・参加者アンケートにおける満足度が96.7%だったので、評価Aとした。 | | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） 各地域、園の幼児教育推進のための研修の場を確保するため、各市町村で推薦された受講者のほか、過去の受講者で受講希望があれば申込み可とする。小学校教員の参加者を増加させるため、Web申し込みができるようにする。修了書受領者を対象に、地域のリーダーとして派遣していく。 | | |

事業B- (3) - ⑦

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | 出前リーダーサポート塾（希望） | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部研究開発担当 | |
| 事業概要 | 市町村教委の要請に基づき、リーダー層教員を対象に演習や協議を行い、カリキュラム開発能力や教員としての専門性を高め、学校経営の中核を担うリーダーとしての資質・能力をのばす。 | |
| 実施内容 | 13会場（11市）で開催、国や県の教育施策や今日の教育課題に関する講話・演習を行った。 今年度受講者は244名。 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・各会場とも市町村教委の協力により円滑に運営できた。参加・体験型研修を様々な手法・ツールを用いて実施したことにより、参加者は意欲的に研修に取り組んでいた。 ・市町村教育委員会の希望により2市に資料提供を行った。しかし、研修時期が5月であったため、資料送付が研修日直前になってしまった。 ・受講生アンケートの満足度が100%であったため評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・市町村教委と研修生のニーズに応えるため、また、調査研究の内容を研修に生かすために講座の内容を変更・追加する。 ・資料提供用の資料については、前年度中に十分検討し、提供できる状態で新年度を迎えるようにする。 | |

(4) 社会の変化に伴う今日的教育課題や本県の教育課題に対応した教職員研修の充実

事業B- (4) -①-イ

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | 中・高等学校英語科教員英語力強化研修（推薦）【新規】 | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部実践力向上担当 | |
| 事業概要 | 国が策定した「英語教育改善策定プラン」で求められる英語力（CEFR B2）を身につけるため、英語検定準1級の取得を目指す。 | |
| 実施内容 | 大学講師による英検準1級取得に特化した研修を通して、英検準1級の自学方法を身に付けるとともに、取得を目指す。（中学60名、高校60名 2日） | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・研修では、英検対策に必要な知識や情報を得ることができたとともに、生徒への英検受験指導に生かすことができた。 ・英検の自学方法がわかり、取得に対するやる気を起こさせることができた。 ・講師に対する評価が91%で、研修内容に対する評価が94%であったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・研修の趣旨、内容、運営等について、学習指導課担当者や神田外語大学担当者等と十分な検討、打合せを行っていく。 ・英検準1級の受験に特化した内容の研修であるため、内容についてより充実したものとなるよう検討していく。 | |

事業B- (4) -②-ア

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | 県内3研修所を会場とする研修（東葛飾、東上総、南房総）（希望） | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部基礎力育成担当 | |
| 事業概要 | 良好な人間関係づくりや学習意欲を高める学習指導に関する研修を行い、指導力の向上を図る。自己肯定感の向上等につながる手法についての知識と技術を身に付ける。 | |
| 実施内容 | 学ぶ意欲を引き出す授業づくりの在り方と学習集団づくりの実際、発達障害の児童生徒の基本的な特性と対応方法、自己肯定感を育む「ほめる」技術と「ホンネ」を引き出すロールプレイング、児童生徒の学びに向かう力を高める指導法の工夫や学習環境の工夫（158名） | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の思いに焦点を当て、発問を見直し、学級づくりや授業づくりのヒントを提供できた。 ・コーチングの理論と指導技術を身に付けることができた。演習等の場が多く、研修内容を習得できた。 ・実践例をもとに、班協議等を通して学級の課題に対する改善策を打ち出すことができた。 ・参加者アンケートにおける満足度が96.4%だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・受講生のニーズに対応し、満足度も高い。希望者を増やすために事業の周知と時期の検討が必要。 ・年々希望者が減少傾向にあるので、今後は総セでの集合研修にしていきたい。 | |

事業B- (4) -②-ア

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 活動と学びのわくわく！生活科実技研修（希望） | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部基礎力育成担当 | |
| 事業概要 | 幼児期に育成された資質・能力と生活科で育成する資質・能力とのつながりを理解するとともに、実践的な研修をととして生活科の授業実践力の育成を図る。 | |
| 実施内容 | 幼保小連携の観点から、幼児期の教育において育成された資質・能力とのつながりを理解することが重要であり、幼児期の教育内容や幼児期の終わりまでに育ててほしい姿についての講話と実践発表及び大学教授によるおもちゃ作りの実技演習（29名） | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小の接続を意識した授業づくりの講話や実践発表があり、すぐに指導に生かせる内容であった。 ・おもちゃ作りの演習では、短時間で簡単に作れるものが多数紹介され、授業に役立つ内容であった。 ・参加者アンケートにおける満足度が96%だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・より充実した研修にするために講話・演習についての時間配分を明確にしていく。 ・希望者多数のため、より多く受講できるように研修会場変更等を検討していく。 | |

事業B- (4) -②-ア

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | 総合的な学習の時間「思考ツールによるしかけ方」研修（希望） | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部実践力向上担当 | |
| 事業概要 | 思考ツールなどを有効に活用した講義・演習等を行い、主体的・対話的で深い学びへと導く仕掛け方の向上を図り、もって総合的な学習の時間の充実に資する。 | |
| 実施内容 | 思考ツールの活用に関する研修を理論編と演習編に分けて行い、思考ツールを取り入れた授業実践力を高める。また、「総合的な学習の時間」の現状と課題について事前に集約し、講話・協議を行うことにより、新学習指導要領のポイントや地域教材の課題設定等について理解を深めた。（59名） | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から、すぐに実践に使える指導方法を身に付けることができ、評価は非常に高かった。 ・受講者の課題に対してQ&A形式で講話を行うことにより、受講者のニーズに合致した研修となった。 ・参加者アンケートにおける各項目の満足度が90%をこえたため、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・受講者のニーズが実態によってばらつきが多くみられるため、実態を把握し、研修講師と連絡を密にとっていく必要がある。 | |

事業B- (4) -②-ア

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | スマイル先生！幼児教育若手指導力アップ研修（希望） | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部実践力向上担当 | |
| 事業概要 | 経験年数2～3年目の幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園の保育教諭を対象に、幼児理解と援助の在り方について主体的・対話的に学び、指導技術の向上を目指す。 | |
| 実施内容 | 体を動かす遊びを通して、保育に生かせる季節の壁面装飾（実技演習）、保育で役立つ遊具遊び（実技演習）、幼児の主体的な活動と保育者の関わりについて（班別協議）（27名） | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・「実技演習は、すぐに生かせるものばかりで勉強になった。」という感想が多かった。 ・班別協議は、ほかの園での対応などの情報交換ができ、自己の課題解決につながる研修となった。 ・参加者アンケートにおける満足度が94.7%だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・午後の実技演習を一つに絞り、時間を確保したが、やや長かったので、来年度は幼児が主体的にかかわれる教材に焦点が当たるよう講師を検討していく。 ・講話は、若手にあった内容になるようにし、実技や演習を組み合わせ設定する。 | |

事業B- (4) -⑤

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | 「政治的教養を育む教育」基礎研修（推薦） | 評価 B |
| 担当部班名 | 研修企画部基礎力育成担当 | |
| 事業概要 | 公職選挙法改正による選挙権年齢引下げ等に対応し、高等学校等における政治的教養を育む教育の更なる充実のために、教科の枠に捉われず総合的な学習の時間や特別活動等の中での教員の指導力向上を図ることを目指す。 | |
| 実施内容 | 改正公職選挙法、政治的教養を育む教育「私たちが拓く日本の未来」の活用、実践発表 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動や総合的な学習の時間を使って指導できることをねらいとし、教務部または生徒指導部で地歴公民科以外の教員を対象として実施している。「主権者教育」の意識を啓蒙することに役立っている。 ・研修生の知識や経験の差が大きく、特に講義形式の研修への参加意欲に差が見られた。 ・参加者アンケートにおける満足度が82%だったので、評価Bとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容をより一層充実させるため、来年度はシチズンシップ教育の研修と統合され、主権者教育の一貫として行われることとなった。 | |

事業B- (4) -⑥-ア

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | 教育情報化推進リーダー養成研修（推薦） | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部メディア教育担当 | |
| 事業概要 | 情報教育や校務の情報化を推進するなど、教育の情報化に向けた校内の組織づくりにリーダーシップを発揮できる人材の育成を図る。 | |
| 実施内容 | 教育情報化推進リーダーの役割、教育の情報化の現状と課題、学校教育と法、情報モラル教育の進め方、ICT機器の授業への活用、プログラミング教育。 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・県の教育情報化の現状を学び、各地域や学校の実態の情報交換を行い、各自の課題を把握した。 ・情報モラル教育、プログラミング教育に関する演習を通してスキルアップを図った。 ・情報モラル教育の年間計画を立て、実態に応じて見通しを持った指導を考える機会となった。 ・小・中学校では、受講生が講師となり、各学校の実態に応じた校内研修を実施した。 ・高等学校では、「情報Ⅰ」における実践力の向上、学校の実態等の情報交換ができた。次年度は、文科省の研修教材に沿って研修を行うことで、内容をより高度にしていきたい。 ・アンケートにおける満足度が93%だったので、評価Aとした。 | |
| 今後の取組、の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想の実現に向け、全国的に1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク整備が急速に進むことが予想される。したがって、本研修でも1人1台端末の環境で、児童生徒がどのように授業等でICTを利用していくのか、そのノウハウについて研修を深めていく必要がある。研修内容をより精査し、時代の流れに沿った研修にしていきたい。 ・教育情報化推進リーダーとして、個人の資質の向上だけではなく、周囲の職員へICT利用のアドバイスができるための研修内容を含めることで、学校や地域の代表として、教育の情報化を推進していくリーダーとなる自覚をより促す。 ・高等学校においては、推薦対象を「情報Ⅰ」を担当する者と明記したが、対象外の参加者も見られた。更なる徹底を図る必要がある。 | |

事業B- (4) -⑥-ウ

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 児童生徒の情報活用能力の育成研修（希望） | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部メディア教育担当 | |
| 事業概要 | 児童生徒の情報活用能力を育てる指導者の育成。 | |
| 実施内容 | 小学校プログラミング指導教員養成研修、メディア教育指導者研修 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校プログラミング指導教員養成研修では、プログラミング教育の指導法等についての理解が深まった。また、各学校で授業実践し、それについて報告・協議する機会を設けたため、今後の広がりも大いに期待できる。 ・メディア教育指導者研修では、SNSの危険性について例を挙げながら説明することで県内のSNSを取り巻く状況について理解できた。情報モラル教育の指導法について、実践例をまじえた説明があるとより理解が深まったと思われる。 ・アンケートの満足度は93%（上記の2研修の平均）であったため、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校プログラミング指導教員養成研修は、受講生のスキルアップとともに、それを各校、各地域で広げていけるようにしていきたい。 ・メディア教育指導者研修については、上記をふまえ、内容を精査していきたい。 | |

事業B- (4) -⑥-エ

| | | |
|---------------------|---|---------|
| 事業名 | 校務における ICT 活用能力向上研修 (希望) | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部メディア教育担当 | |
| 事業概要 | 表計算、Web 管理及びアンケート集計アプリケーションの実技演習を通して、校務の効率化、データ管理、表現力向上のためのコンピュータ活用能力の向上を図る。 | |
| 実施内容 | 表計算入門、表計算処理、はじめての表計算マクロ、表計算マクロ中級編、SQS 等を利用したアンケート作成・集計、NetCommons を用いた記事作成、サイト運用。 | |
| 事業の効果 (成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> 表計算の基本的な操作に関する研修は、4校の県立高校を会場にして実施したが、地域により、倍率に大きな差が出た (2倍超1校、1倍未満2校)。 表計算マクロについては、今年度から2つのレベル別に講座を設定した。自身のスキルレベルに適合した講座を選択できるようになり、昨年度よりスムーズに研修が進んだ。 表計算処理、マクロ処理、NetCommons、SQS、プレゼンテーションに関しては、専門家を講師として招き、スキルの向上に役立った。 アンケートの満足度は92% (上記の7研修の平均) であったため、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性 (改善策等) | <ul style="list-style-type: none"> 表計算入門については、講師の関係や地域による希望者数の偏りから、開催校を一部変更する。 はじめての表計算マクロについては、希望者が大変多かったため、来年度は2組増とし、定員に満たなかった NetCommons (サイト運用) は来年度実施しない (再来年度は実施予定)。 | |

事業B- (4) -⑦

| | | |
|---------------------|---|---------|
| 事業名 | 初等理科 (希望) | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部科学技術教育担当 | |
| 事業概要 | 小学校教員等に、学習指導要領理科に基づいた教材開発、学習指導法、観察・実験等の実践的な研修を行い、理科指導力の向上を図る。 | |
| 実施内容 | 実験や自然観察など体験を重視した内容で、3研修延べ88名参加の予定で実施。 | |
| 事業の効果 (成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> 3研修延べ79名参加。小学校理科で使用する教材の製作、観察・実験の具体的な方法等の研修を行った。 昨年度、定員を大きく超過した研修については、定員数を増やすことで対応できた。 受講生のアンケートで「全体的に満足できるもの」の項目について、3研修の平均が90%だったため評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性 (改善策等) | <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、理科の今日的な課題である自然体験活動研修、理数教育実践研修の充実を図り、小学校の授業で実際に活用できるよう研修を実施する。 | |

事業B- (4) -⑦

| | | |
|--|---------|---------|
| 事業名 | 物理 (希望) | 評価 A |
| カリキュラム開発部 科学技術教育班 担当 | | |
| 事業概要 小・中・高等・特別支援学校教員を対象に、物理分野に関する研修を通して、教員の見識を深めるとともに、専門性の向上と指導力の向上を図る。 | | |
| 実施内容 電気回路、蓄電池等の教材の製作・電場、磁場、太陽電池の実験・材料工学、接合工学に関する大学での講義・実習・放射線についての基礎知識の習得や観測研修は外部施設や大学を中心に実施。3研修延べ55名募集し、実施。 | | |
| 事業の効果 (成果・課題・評価の理由) <ul style="list-style-type: none"> ・3研修で延べ46名が参加した。 ・授業づくりのヒントのための先端技術を学ぶ研修にすることができた。 ・受講生のアンケートで「全体的に満足できるもの」の項目について3研修の平均が98%だったため評価Aとした。 | | |
| 今後の取組の方向性 (改善策等) <ul style="list-style-type: none"> ・毎年研修内容を改善し、新たな内容等を付け加えて行っている。 ・参加者が募集人数を満たさない研修があったので、研修一覧の内容をさらにわかりやすく記述する。 ・コース別や少人数での研修が実施できるよう検討する必要がある。 | | |

事業B- (4) -⑦

| | | |
|--|-------------------|---------|
| 事業名 | 化学 (希望) | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部科学技術教育担当 | |
| 事業概要 化学の最先端の研究を行っている大学と連携を図り、最新の研究成果を実験・観察をとおして学ぶことにより、教員の見識を深め、指導力の向上を図る。 | | |
| 実施内容 化学の最先端実験研修及び社会にいきる科学技術研修 (化学コース) を実施。2研修で延べ35名募集し、実施。 | | |
| 事業の効果 (成果・課題・評価の理由) <ul style="list-style-type: none"> ・化学分野における専門性の高い内容もあったが、講義と実験実習を行うことで、授業に生かせる最先端の化学の知識・技術を学べる機会となった。2研修を実施し、延べ34名が参加した。 ・受講生のアンケートで「全体的に満足できるもの」の項目が、2研修とも100%だったため評価Aとした。 | | |
| 今後の取組の方向性 (改善策等) <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も2研修を実施する予定。大学との連携を図り、講師との事前打ち合わせを十分に行い、最先端の研究成果から学校の授業で活用できる内容とし、教員の指導力向上を図る。 | | |

事業B- (4) -⑦

| | | |
|---------------------------|---|-----------------------|
| 事業名 | 理科実験土曜塾（希望） | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部科学技術教育担当 | |
| 事業概要 | 小学校教員と特別支援学校教員の理科の観察・実験の技能に関する研修を実施し、専門性の向上を図る。土曜日開催で、希望者を募集し、自主的な参加による研修とする。 | |
| 実施内容 | 高等学校（3校）で、小学校の学習指導要領に基づいた基礎的な観察・実験の研修を実施 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの教育事務所管内の高等学校1校ずつで実施（本年度は県立津田沼高校、県立木更津高校、県立柏高校）し、延べ24名が参加。 ・ 参加者は、実技を通して実感できるので満足度は高い。 ・ 土曜日開催ということで、受講生に興味・関心を持ってもらい、参加者を増やすことが課題である。 ・ 研修後のアンケートでは、「全体的に満足できるもの」の項目が、実施した3校でいずれも100%であったため、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜日開催が起因しているためか、毎年希望者が少ない状況が続いている。その都度対応策を講じてきたが状況が好転しないため、次年度は本研修を廃止することにした。その代替として、現行の研修「小学校理科すぐに役立つ観察・実験研修」の内容を一部変更し、本研修の内容を盛り込むことで夏季休業中の平日に参加できるようにした。 | |

事業B- (4) -⑦

| | | |
|---------------------------|--|-----------------------|
| 事業名 | 産業教育 技術・家庭科（希望）（高等学校実技研修【a 家庭科・工業科】） | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部科学技術教育担当 | |
| 事業概要 | 教科の指導理念並びに指導理論と実技の研修を行い、指導者としての資質の向上を図る。 | |
| 実施内容 | 高等学校、特別支援学校教員を対象とし、各科目の指導上必要な知識・技能を習得し、教科指導の充実と向上を図る。家庭科、工業科合わせて2研修で延べ40名募集し、実施。 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭科13名、工業科9名参加。 ・ 指導力や技能向上が図れる内容であり、全ての研修で受講生のアンケートで「全体的に満足できるもの」の項目について、2研修の平均が96%だったため評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの結果を参考に教科の特性、現場のニーズを考慮して実技研修を実施していく。研修内容の選択と適切な講師依頼が課題。 | |

事業B 研修・能力開発事業

事業B- (4) -⑦

| | | |
|----------------------------|---|-----------------|
| 事業名 | 産業教育 技術・家庭科 (【a 推薦研修】) | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部科学技術教育担当 | |
| 事業概要 | 教科の指導理念並びに指導理論と実技の研修を行い、指導者としての資質向上を図る。本研修で学んだ受講生は、今度は各教育事務所が実施する地方伝達研修の講師となる。 | |
| 実施内容 | 学習指導要領に基づいた題材に関する実技研修を行う。 | |
| 事業の効果 (成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校家庭科研修では、のべ34名が参加し、中学校技術・家庭科研修では、のべ70名が参加。その後の地方伝達研修では全県で760名参加した。 ・研修後のアンケートでは、「全体的に満足できるもの」の項目について、6研修の平均が98%だったため評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性 (改善策等) | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果をもとに、指導者の指導力及び実技技能の向上を図る。 ・研修内容の選択と適切な講師依頼が課題となっている。 | |

事業B- (4) -⑧-ア

| | | |
|----------------------------|---|-----------------|
| 事業名 | 障害の理解と指導 (希望) | 評価 A |
| 担当部班名 | 特別支援教育部 | |
| 事業概要 | 発達障害、言語、視覚、聴覚、発達につまずきのある幼児を対象とした8つの研修を希望研修として実施した。今年度は高等学校における発達障害のある生徒の支援についての研修を2つ新設した。 | |
| 実施内容 | 発達障害、言語、発達につまずきのある幼児に関する研修は総セを会場として実施し、視覚・聴覚に関する研修は千葉盲・千葉聾学校を会場として実施した。 総参加者数503名 | |
| 事業の効果 (成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> ・8つの研修を通して、具体的な支援の在り方や教材教具の紹介等、実践に活かせる内容の研修を実施することができた。参加者アンケートにおける満足度の平均は99% (前年度比±0) であり、研修の目的をほぼ達成することができ、かつ、当日の運営を含めて計画通りに実施できたことから、評価をAとした。 ・新規に実施した高等学校に関する2つの研修事業は、参加者の満足度は95%と高かったが、一部研修内容や方法を改善していく予定である。 | |
| 今後の取組の方向性 (改善策等) | <ul style="list-style-type: none"> ・研修参加希望者のニーズに応じて、研修内容や日程等の見直しをする。 ・障害についての理解を深めるために、現在実施していない障害種についての研修事業を新設する予定である。 | |

事業B- (4) -⑧-ウ

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 自立活動研修（推薦・希望） | 評価 A |
| 担当部班名 | 特別支援教育部 | |
| 事業概要 | 推薦研修では、特別支援学校の自立活動指導者育成のため、自立活動推進者育成研修と、医療的ケアについての基礎知識の習得と専門性の向上を目的として、医療的ケア担当者実践研修を実施した。また、希望研修としては、摂食指導に関する専門性を高める研修に加え、知的障害のある子の自立活動研修を実施した。 | |
| 実施内容 | 自立活動推進者育成、医療的ケア、摂食指導、知的障害のある子の自立活動と、それぞれの専門性を高める4つの研修を実施した。総参加者数354名 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> 自立活動推進者育成研修では、新学習指導要領における自立活動の考え方についての講義や、各校の取組についての発表及び協議により、各校のさらなる発展に資する研修となった。医療的ケア担当者実践研修では、医師による専門的な講義や各校の取組について実践発表を実施したことで、参加者の専門性の向上につながった。知的障害のある子の自立活動研修では、知的障害教育における自立活動の在り方と指導の実際についての講義や実践発表及びグループワークを実施することで、知的障害のある子の自立活動について理解が深まった 4つの研修の参加者アンケートにおける満足度の平均は99%（前年度比-1）であり、研修の目的をほぼ達成することができた。当日の運営を含めて計画通りに実施できたことから、評価をAとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> 知的障害のある子の自立活動については、新学習指導要領の実施に伴い、内容の見直しを行い、カリキュラム・マネジメントの観点について能動的に学ぶ研修内容として実施予定である。 | |

事業B- (4) -⑧-カ

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 施策・課題への対応（推薦・希望） | 評価 A |
| 担当部班名 | 特別支援教育部 | |
| 事業概要 | 特別支援学校におけるICT活用やパラリンピック教育など、今日的な施策や課題に対して研修事業を実施する。 | |
| 実施内容 | ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくりや学級づくり研修を、小学校及び中・高等学校と対象を分けて実施した。ICT活用研修ではiPadを活用し、参加者のニーズに応じた内容で実施した。また、新規事業として、特別支援学級担当者の専門性向上研修を実施して、調査研究事業の成果を踏まえた内容を盛り込んだ。他に、医師から学ぶ医学的知識研修、知って楽しむパラリンピック種目『ボッチャ』体験研修を実施するなど施策・課題に応じて6つの研修を実施した。総参加者数466名 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ICT活用研修では、タブレットの基本操作からアプリ等を活用した実践例等について学ぶことで、現場で生かすことのできる研修となった。 パラリンピック教育に関する研修では、実技を通して障害についての理解が深まった。 6つの研修の参加者アンケートにおける満足度の平均は100%（前年度比±0）であり、研修の目的をほぼ達成することができ、当日の運営を含めて計画通りに実施できたことから評価をAとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> 参加希望者が定員を大幅に上回った研修事業もあったため、研修会場や定員、参加対象者の見直し及び研修の運営形態の工夫を行い、参加者のニーズに沿った研修事業とする。 医療的ケアについてのニーズの高まりから、対象者に小・中学校教諭等も加えて、推薦研修から希望研修として新設する。 | |

事業B- (4) -⑨-イ

| | | |
|---------------------|---|---------|
| 事業名 | 若い教師のためのあすなろ塾 (希望) | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部研究開発担当 | |
| 事業概要 | 初期層教員としての資質や指導力を磨くため、教職経験1年から6年程度の小・中・義務教育学校教員及び講師を対象に、少人数による演習や協議を重視した研修を実施する。 | |
| 実施内容 | 学級経営・学習指導の基礎・基本や今日の教育課題やアンケートからのニーズに応え、道徳、特別支援教育、主体的・対話的で深い学びを実現するための問いや教材研究の研修を実施した。年4回土曜日開催。受講者は、延べ99名。 | |
| 事業の効果 (成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> ・演習型の研修を取り入れ、講義だけではなく、同世代の参加者同士が考え議論するスタイルを今年度も多く取り入れた。 ・今年度は外部講師を1名招聘した。「授業の達人」でもある外部講師による「模擬授業」を行った。若い先生方にとって、今後の授業づくりについて学んでいく、良い機会となった。 ・今日の課題として、主体的・対話的で深い学びについてや道徳の評価についても「実践に生かしていきたい」という感想が複数の受講者からあった。 ・研修テーマを若い先生方の学びたいというニーズにそったものに変更した。そのため、受講者が昨年度と比べると68%増となった。 ・受講生アンケートの満足度が100%であったため評価をAとした。 | |
| 今後の取組の方向性 (改善策等) | <ul style="list-style-type: none"> ・研修生が若年層教員であることに加え、学校現場での実践的な内容を求めていることを考慮すると「授業の達人」などの現場の力のある教諭を講師として招聘していくことを、今後も検討していく必要がある。 ・受講者の希望にもあるプログラミング教育や不登校対策等についても、研修を行っていきたい。 | |

事業B- (4) -⑨-エ

| | | |
|---------------------|---|---------|
| 事業名 | 「知りたい・学びたい発達障害」土曜塾 | 評価 A |
| 担当部班名 | 特別支援教育部 | |
| 事業概要 | 特別支援教育及び障害児 (者) の理解推進を図るために、教育関係者及び県民を対象に実施する。 | |
| 実施内容 | 思春期を迎えた子供たちへの対応及び子供の力を伸ばすための褒め方・叱り方・言葉かけについて、大学教授を招いて、2つの研修を実施した。 総参加者 206名 | |
| 事業の効果 (成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> ・「具体的な事例を挙げて説明してくれるので、分かりやすかった。」「日頃の子供への言葉かけを振り返りながら学ぶことができた。今まで思っていた捉え方と違い、見方が変わった。」といった感想があった。 ・2つの研修の参加者アンケートにおける満足度は100% (前年度比+3) であり、当日の運営を含めて計画通りに実施できたことから、評価をAとした。 | |
| 今後の取組の方向性 (改善策等) | <ul style="list-style-type: none"> ・一般県民の開催日や内容へのニーズを勘案して、副題を「発達障害のある児童生徒の学校生活、就業生活を考える」とし、土曜塾として引き続き実施する。 | |

事業B－(4)－⑩－イ

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | ちば！教職たまごプロジェクト（希望） | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部研究開発担当 | |
| 事業概要 | 公立学校教員を志望する大学生、短期大学生及び大学院生を対象に、実践研修等を体験する機会を提供することにより、教員として必要な資質・能力を高め、教職への理解を深めるとともに、採用後の教職員研修との円滑な接続を目的としている。 | |
| 実施内容 | 1,085名の研修生が参加した。各教育事務所、特別支援教育課、千葉市の協力で実施した。各教育事務所等で年2回の研修会と年間を通して1日単位で30回以上の学校における実践研修を行った。 | |
| 事業の効果(成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> ・「実践研修が教員になるための資質・能力の向上に役立っている」、「年間通して学校に携わることで得るものが多い」等、研修生の肯定的な意見が多くあがった。 ・年間2回の地区別研修は、各事務所担当者が講師による講話、班別協議等を工夫し、それぞれのねらいを達成することができた。 ・大学と連携して教員養成を行っていくために、教職員課と連携して大学担当者への説明会を実施し、当研修への理解を促すことができた。 ・研修内容や学業との両立等、困っていることがある研修生がいる。研修校や事務所担当者との連携を密にし、相談しやすい環境づくりを今後も進めていく必要がある。 ・研修生アンケートの満足度が98%であったため評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・実施要綱の加筆部分（最終年度可・健康診断書の提出の徹底）の効果、状況を見取る。 ・研修生のみならず、研修校、事務所、大学担当者の意見も参考に必要に応じて今後も見直していく。 | |

事業B－(4)－⑪

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 高等学校におけるALの視点にたった授業づくり研修（推薦）【新規】 | 評価 B |
| 担当部班名 | 研修企画部基礎力育成担当 | |
| 事業概要 | ・高等学校の優れた授業実践を収集し、学習指導案とともに授業動画を各教員に配信する調査研究事業を進めている。その成果を研修事業の中で活用し、高等学校の授業改善に向け教員の授業力向上を図る。 | |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業ライブラリの見方及びその活用の視点について理解を図る。 ・各研修生がそれぞれ作成した学習指導案をもとに班別協議を実施する。 | |
| 事業の効果(成果・課題・評価の理由) | <ul style="list-style-type: none"> ・授業ライブラリの存在やどのようなものかを伝えることができたことは大きな成果の一つである。 ・班別協議については、異なる学校の先生方がどのような授業をしているかを共有することができた。 ・自校の教科会議の場面で授業について話をすることで十分などといった否定的な回答も見られ、研修生の満足度は82%であったため、評価をBとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・ALを改め「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくり研修とし、また、それを推進するためにも、研修の中で高等学校授業ライブラリを実際に見る場面を多く設け改善を行う。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりに力を入れている学校の協力を得て、教職員のニーズに応えられるような工夫を行う。 | |

事業B- (4) -⑫

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | グッと！オリパラ① ～フェンシング・ゴールボール体験研修～ グッと！オリパラ② ～テコンドー・シッティングバレーボール体験研修～ (希望) | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部基礎力育成担当 | |
| 事業概要 | 東京オリンピック・パラリンピックに向け、国や県の取組を理解するとともに、県内開催の種目の実技体験を通して各種目の魅力やスポーツのすばらしさ、障害者理解等を深める。 | |
| 実施内容 | 東京オリンピック・パラリンピック開催へ向けての千葉県の取組、県内開催種目の体験（①フェンシングとゴールボール、②テコンドーとシッティングバレーボール）、オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る。（①②各50名） | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> 東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県の取組について理解すると共に、実際の競技体験を通して、受講生自身がオリンピック・パラリンピックの意義を実感することができた。 研修で得たことを学校に持ち帰り、オリパラ教育を普及したいという積極的な意見が多かった。 受講者アンケートの全項目において、肯定的評価が95%以上のため、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> 来年度は東京オリンピック・パラリンピック開催年であり、研修実施時期と開催期間が重なることから1回に集約する。また、オリパラ教育の実践報告や大会後の取組の方向性について触れる研修とする。 | |

事業B - (4) -⑬

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業デザイン研修（希望） 【新規】 | 評価 A |
| 担当部班名 | 研修企画部基礎力育成担当 | |
| 事業概要 | これからの社会を生き抜くための児童生徒が身に付けるべき資質・能力を考え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業構成をデザインする力の向上を目指す。 | |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを実現する授業デザインを学ぶ これからの社会を生き抜く児童生徒の資質・能力を育成するための指導の先行実践 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> 目指すべき児童生徒の資質・能力について意識を高めることができ、さらに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践者の話を直接聞き、話し合いながら自身の実践に落とし込む時間を確保したことで、具体的な課題をもって研修に取り組むことができた。 受講者の満足度が94%のため、評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> 希望倍率が4倍を超えたため、開催回数を2回にして、多くの受講者を受け入れられるようにしたい。 来年度は、県内から実践者を選考し、千葉県の教育実践として運営する。 ICTを活用して、同時進行で広く意見を集める方法を継続し、ICTの有効性を引き続き体験させたい。 | |

事業B- (4) -⑭

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | 創造力を育む「課題研究」の進め方研修（希望）【新規】 | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部科学技術教育担当 | |
| 事業概要 | 高等学校、特別支援学校教員を対象に、課題研究の進め方について、体験的な研修を行い、指導力の向上を図る。 | |
| 実施内容 | 千葉県科学館を研修会場とする。展示物の見学、体験を通して受講者自らが課題を発見し、研究を進め、発表する一連の流れを疑似的に体験することで、課題研究の指導法を学んだ。 24名募集し、実施。 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・指導の過程で特に難しい「課題発見 → 課題設定」について、科学館という恵まれた環境の中で受講生は、さまざまな刺激に触れながら自分の課題を見つけ、追究、発表することができた。 ・自分自身が生徒になって探究活動を行うことで、実体験を伴って指導法を理解できた。 ・21名が参加した。 ・研修後のアンケートでは、「全体的に満足できるもの」の項目が95%だったため評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・本研修が、どのように実際の授業に生かすことができるのかについて受講生から聞き取り、より実践的な研修内容を目指す。 | |

事業B- (4) -⑯

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | プログラミングデーin ちば 2019（推薦）【新規】 | 評価 B |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部メディア教育担当 | |
| 事業概要 | 県内の全小学校（千葉市を除く）を対象に実施。小学校におけるプログラミング教育のねらい等を理解するとともに、プログラミング体験を通して実践的指導力を持った教員を育成する。 | |
| 実施内容 | プログラミング教育の意義について、校内で推進していく手立て、プログラミング体験実習 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・県内の全小学校（千葉市を除く）から1名ずつ参加してもらい、プログラミング教育を今年度から開始することを前提として、各学校で校内研修を通してプログラミング教育をスタートできる内容にした。プログラミング教育の意義等に関する理解は深まったと思われるが、校内研修の実施時期については学校に任せるしかないため、各学校の教員全体にまで理解が広がるかは不透明である。 ・プログラミング体験など、実践に生かせる内容を盛り込んだ研修を実施することができた。 ・映写ホールで、大ホールの講演を遠隔投影したが、音声クリアに聞こえず、受講者が内容を理解できなかったため、途中で大ホールに移動する措置をとった。 ・参加者アンケートにおける満足度の平均は85%であったが、上記トラブルに対する対応等、反省点もあったため、評価をBとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・上記の反省をふまえ、大ホールの収容人数内で実施できるよう、来年度は2日間で開催する。 ・2日間で開催することで、個々の演習時間を増やすことができるため、より多くの内容を演習できるようにする。 ・今年度はプログラミング教育に取り組む第一歩という意味合いが大きかったが、次年度は「発展編」と銘打ち、プログラミング教育の指導をどう深めていくか、という視点で研修内容を精査していく。 | |

C 学校支援事業

事業C 学校支援事業

(1) 地域、学校等からの要請に応える講師派遣

事業C- (1) -①

| 事業名 | 講師派遣（出前講師）等 | 評価 A |
|--------------------|---|---------|
| 担当部班名 | カリキュラム開発部研究開発担当 | |
| 事業概要 | 学校支援の一層の充実を図るため、地域・学校等からの要請に応え講師を派遣する。 | |
| 実施内容 | 地域・学校等からの要請に応え、講師派遣可否決定資料を作成し、可否決定後に講師を派遣する。また、研究協議会等へ委員や助言者として協力委員を派遣する。 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、特にプログラミング教育、特別支援教育等専門性についての講師依頼を受けている。12月末日までに講師派遣が60件(昨年度77件)あった。依頼内容は、プログラミング教育やICTの活用、情報モラルに関すること、特別支援教育の専門的な内容に関するものがほとんどである。 ・急な依頼もあり、ニーズに応えられるように、適切な講師派遣ができるようにしていく必要がある。また、協力委員として各種協議会への派遣は24件(昨年度26件)である。 ・今年度より実施報告書を作成し、講師派遣の評価を行った。講師派遣の内容の有効性について、肯定的な評価は、100%（とても有効だった88.9%、有効だった11.1%）であった。依頼があったものについては講師を派遣している。講師派遣の内容について肯定的な評価が多いため評価Aとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・当センターの専門的な内容に関する依頼、様々な依頼に応えられるよう、各部・各担当の専門性の向上を図る必要がある。また、今後も参加者のアンケートを取り、業務の改善を図っていく。 | |

(2) カリキュラムサポート室の充実及び情報提供

事業C- (2) -①

| 事業名 | 教育活動相談業務等カリキュラムサポート室の運営 | 評価 B |
|--------------------|--|---------|
| 担当部班名 | カリキュラム開発部研究開発担当 | |
| 事業概要 | 学校や教職員、県民などの情報提供にかかわる問い合わせに対応する。 教育課程編成の支援、県民に対する教育に関するサービスを実施する。 | |
| 実施内容 | 教育活動全般に関わる支援・相談に対応する。 令和元年12月末現在、利用者数888名。相談件数73件（部屋の利用方法、映像資料の貸出、資料等の紹介）。 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・研修企画部の協力を得て、総合教育センターで実施する39の研修、44の各地方事務所において研修開始時間前にCS室の広報を行い利活用を促した。また、あすなる・リーダーサポート塾の23の出前講座、休日開故事業でも同様に広報したこと、長期研修生の利用等により、利用者数は昨年度並みであった。 ・教科書展示会や特別支援関係資料の閲覧など、県民に対する教育に関するサービスも併せて実施した。 ・JICAとの連携を図り、定例会議の実施、体験型教材の展示、冊子等の配付に努めた。 ・前年12月末比、利用者数は98%であるため、評価Bとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・研修企画部と連携し、各種研修前に広報の機会を設けたこと、出前講座や休日開故事業も同様に広報したことで、サポート室の活用方法を周知することができた。今後は、休日開故事業等で実際に活用する時間を設ける、引き続き各講座でチラシを配付するなど、多くの教職員にカリキュラムサポート室の利活用について周知していく。 | |

(3) 調査研究成果の普及・活用促進

事業C- (3) -①

| | | |
|---------------------|--|----|
| 事業名 | 総合教育センター・子どもと親のサポートセンター研究発表会 (未実施) | 評価 |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部研究開発担当 | |
| 事業概要 | 総合教育センター及び子どもと親のサポートセンター等の研究成果を広く県内教職員・教育関係機関職員に公開することにより、各学校等における研究活動の充実に資する。 | |
| 実施内容 | 当センター大ホールを会場に7件の発表と松田孝氏による全体講演を行う。 | |
| 事業の効果 (成果・課題・評価の理由) | 未実施のため記載せず。(令和2年2月21日(金)実施予定) | |
| 今後の取組の方向性 (改善策等) | 未実施のため記載せず。 | |

事業C- (3) -③

| | | |
|---------------------|---|----|
| 事業名 | 『千葉教育』の発行 | 評価 |
| 担当部班名 | 総務課総務企画担当 | |
| 事業概要 | 本県の優れた教育実践の紹介や、教育に関する情報提供、センター研究・研修活動等を発信することにより、現場で活用できる教育情報誌を作成し、県内全学校及び県内外の教育機関等に2,200部配付している。 | |
| 実施内容 | 学校自慢 (在籍校の紹介)、提言 (教育界以外の分野で活躍されている方による執筆)、現代の教育事情 (世界・国・県・市町村からタイムリーな話題の提供)、私の教師道 (日頃の教育実践の紹介)、活・研究 (長研生による報告)、情報アラカルト (教育に関する情報提供)、千葉県歴史に関する情報提供等、教育現場が望むテーマや新たな教育課題に即した内容の充実に努める。また、アンケート実施により更なる改善を図る。 | |
| 事業の効果 (成果・課題・評価の理由) | ・発行が遅れているため、効果を検証できないので記載せず。(令和元年度中に発行予定) | |
| 今後の取組の方向性 (改善策等) | ・上記理由により記載せず。 | |

事業C- (3) -④

| | | |
|--------------------|--|---------|
| 事業名 | ガイドブック等の普及 | 評価 A |
| 担当部班名 | カリキュラム開発部研究開発担当 | |
| 事業概要 | 既刊のガイドブックの活用が各学校で促進されるよう、研修会等で広報し普及に努める。 | |
| 実施内容 | カリキュラムサポート室の広報活動と併せてガイドブックの内容を紹介。また、研修事業の講話・演習等でガイドブックを活用する。 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・「すぐに使える校内研修の手法とツール」の内容は、その手法とツールを用いた参加・体験型研修として、あすなる塾・リーダーサポート塾等で53の講座で展開した。 ・あすなる・リーダーサポート等の出前講座や各種研修等において、ガイドブックの内容を演習等で活用したり、研修の中でダウンロードの方法について広報したりするなど、利用促進に努めた。 ・5冊（校内研修、校内研修の手法とツール、授業づくり、学級づくり、資質・能力）のガイドブックのダウンロード件数は、12月末現在、19,302件（昨年度14,737件）前年度比131%であったため、評価はAとした。 ・昨年度Webアップした2冊（カリキュラム・マネジメント、接続期のカリキュラム）のガイドブック等のダウンロード数は、12月末現在、カリ・マネが3,923件、接続期が4,136件であった。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・教育を取り巻く情勢の変化も考慮し、現場の実情に対応できるよう、ガイドブックの刷新・改善を図っていきたい。 | |

D 教育相談事業

事業D 教育相談事業

(1) 特別支援教育相談体制の充実

事業D- (1) -①

| 事業名 | 日常の教育相談の充実 | 評価 A |
|--------------------|--|---------|
| 担当部班名 | 特別支援教育部 | |
| 事業概要 | 特別な教育的支援が必要な幼児児童生徒や保護者からの教育・療育上の相談について、来所・電話・メール・医療等の方法で相談を実施する。 | |
| 実施内容 | 個々の教育的ニーズに応じて、本人や保護者の気持ちに寄り添いながら、来所相談・電話相談・メール相談等を実施。12月末日現在の実績は、来所相談件数80件、来所相談回数415回、電話相談件数435件、メール相談件数19件、医療相談31件 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> ・来所相談に関しては、件数は昨年度の同時期よりも11件減少しているが、毎月、新規ケースを受理するなど、引き続きニーズがある。しかし、相談回数は72回増加している。 ・ケースに応じて見立て会議を20件実施して、今後の相談の方向性等について検討するとともに、相談担当者としての専門性の向上に努めた。 ・即時対応の重要性を念頭に、相談申込から相談者への連絡までを一週間以内とすることを、すべてのケースについて達成することができた。 ・来所相談では、小中学校の通常学級児童生徒を対象とする相談が半数以上を占めている。ケースによっては出張相談を行い、学校と連携して対応している。相談の主訴としては、家庭の療育に関する内容が最も多く22.5%を占め、続いて、行動面、対人関係面が約19%となっている。 ・電話相談では、来所相談同様、小中学校の通常学級の児童生徒の相談が多いが、年々高校生の相談が増えてきている状況である。 ・出張相談を8件実施し、学校のケース会議に参加するなど、保護者、本人、学校関係者等と共通理解を図りながら、主訴の解決に努めてきた。 ・今年度は、月1回の所員研修に加えて、所員や嘱託相談員を講師としてのミニ研修会、県立障害者高等技術専門学校への施設見学、高次脳機能障害に関する研修等を実施して、所員及び嘱託相談員の専門性の向上に努めた。 ・今年度は、所員等の相談に関する苦情等の電話はなく、また、相談の事後報告から、感謝の言葉も多数届いた。相談件数は減少しているが、概ね相談者のニーズに応じた相談が実施できていると考えている。また、相談担当者としての専門性の向上には、研修会を積極的に実施したり、見立て会議を確実に実施したりすることで、向上を図れたと考える。これらのことから総合的に考えて、評価をAとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、個々の教育的ニーズに応じて、本人や保護者の気持ちに寄り添いながら相談を実施していくとともに、学校現場へのお出張相談や学校等支援の充実を図る。 | |

事業D- (1) -②

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 子どもと親のサポートセンターとの協働的な相談の実施 | 評価 A |
| 担当部班名 | 特別支援教育部 | |
| 事業概要 | 子どもと親のサポートセンターとの相談連携会議等を通して、担当者間で共通理解を図りながら相談を実施する。 | |
| 実施内容 | 発達障害等のある児童生徒の教育相談や不登校等の相談では、両センターの専門性を生かし、協働して相談を実施。相談連携会議を9回、相談連携ケース2件 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> 相談連携会議は、月1回のペースで実施し、両センターの相談の状況等について情報交換をしている。 相談連携会議の情報交換の内容について「連携だより」に記載し、両センターで回覧し、共通理解を図っている。 今年度も子どもと親のサポートセンターと教育相談に関する研修会を合同で実施し、専門性を高めることができた。 連携して相談にあっているケース数は昨年度同様であるが、子どもと親のサポートセンターの担当者と連携した相談を着実に実施している。また、昨年度からの引き継ぎケースについては、特別支援教育部の担当としての主訴は解決している。これらのことから、評価をAとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> 障害特性だけでなく、不登校やいじめなどを含む複雑なケースの相談も増えているため、子どもと親のサポートセンターとの連携協力体制を生かし、多面的なニーズに対応していく。 | |

事業D- (1) -③

| | | |
|--------------------|---|---------|
| 事業名 | 関係機関との相談連携の推進 | 評価 A |
| 担当部班名 | 特別支援教育部 | |
| 事業概要 | 特別支援教育課や教育事務所等との連携を通して、県内の相談実施状況を把握し、相談者のニーズに応じた相談が実施できるようにする。 | |
| 実施内容 | 特別支援教育課主催の研修会や特別支援学校コーディネーター連絡協議会に2回、千葉県教育研究所連盟主催の研究協議会に2回参加。相談内容によっては、教育事務所や市町村教育委員会との連携を図り、相談者のニーズに応じた相談を実施。県警察本部主催の相談業務相互支援ネットワーク意見交換会に参加し、関係機関との連携を深め、複雑なケースにも適切に対応できるようにしている。 | |
| 事業の効果（成果・課題・評価の理由） | <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校が行っている小中高等学校への相談の現状など、学校現場の取組や相談機関の相談実施状況を把握することができた。 各研修会及び協議会等を通じて得た情報等を日常の相談業務に生かしている。 千葉県教育研究所連盟主催の研究協議会で、特別支援教育部で実施している教育相談の取組を発表するとともに、センター間の連携について、共通理解を図った。 当センターや子どもと親のサポートセンターで実施している研修会等の折に、「教育相談の御案内」のチラシを配布して、周知を図ってきた。 相談者のニーズに応じて、積極的に他機関と連携を図ったり、他機関を紹介したりすることができたため、評価をAとした。 | |
| 今後の取組の方向性（改善策等） | <ul style="list-style-type: none"> 本センターの相談の他、学校等支援や研修事業にも生かしていく。 他機関との連携協力をより充実させていく。 | |